Backstage Pass
～Director's notes～

THEiDOLM@STER
シンデレラガールズ
U149
高橋さんとは3話で
お世話になりました。
U149は大変でしたけど、
とてもよい経験をさせていただきました。
個人的にも作画を紙から
デジタルに切り替える機会を
いただいた作品です!
SATOSHI
KOKE

高橋さんが誘ってくれたおかげで
この二人を仕事で描くことができました……感謝！

U149 3話
楽しく推しが
描けました。
2024.7

SEIFUKU KAWAII
MILLION
LIVE!
2024. two

高橋さんと初めてお会いした
TVアニメ、アイドルマスター制作当時、
AKBの総選挙に「佐藤亜美菜ちゃんを
よろしくお願いします！」と布教していた
2011年から12年後。
推しがキャストの1番上にくるアイドル
マスターを見れる日が来るなんて。
夢みたいでした。

推しが最悪のクリスマスと例えたあの日は
自分にとっては最高のクリスマスプレゼント
でしたし、アイドルをやってたそんな彼女を
プロデューサーさんたちが受け入れないハズ
無いと確信していましたし、3rdで一目見た瞬間
心奪われずにはいられなかったと思います。

実は原画のお誘い頂いたのですが
多忙と理由はありつつも
やはりただの1ファンでありたかったので
お断りさせていただき、1クール
堪能させていただきました。

最高の時間をありがとうございました。

飯塚晴子

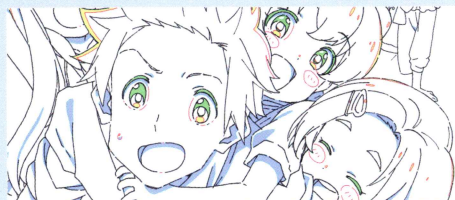
デレ10th & U149
おつかれ様でした!
つちやさんP.こと

ゲスト様とコメントご紹介

山口智さん(表紙・裏表紙)

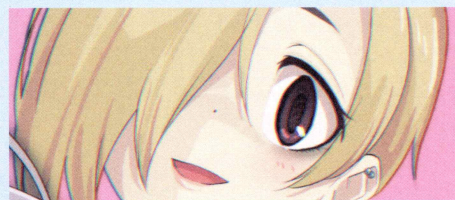
U149だとみりあが一番好きです(^^)!

小池智史さん

(コメントはイラスト内にて)

松井瑠生さん

デレマス10thアニメにて作監、
U149では原画として参加させていただいておりました。
今回は中でも10thアニメでパート作監を担当した思い出のある
関裕美と乙倉悠貴の2人を思う存分キラキラに
閉じ込めたイラストにしてみました。
こうしてまた彼女たちを描かせてもらえて本当に嬉しいです!
いつかやってみたかった寄稿をするという夢も叶いました。笑
実は…もとより関ちゃんPとしてデレステを楽しんでいた身なのですが2つのアニメを通して今まで知らずにいた
アイドル達の魅力に触れられて本当に楽しい仕事でした。
贅沢を言うならまた彼女達を描ける日を待ち望んでいます…!
ご一緒したアニメスタッフの皆さん、Pさん、そしてこの本に呼んでくださった高橋さん、ありがとうございました!!

向川原憲さん

(コメントはイラスト内にて)

くえるさん

(コメントはイラスト内にて)

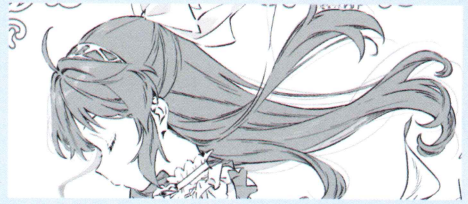
改リさん

和久井留美、三船美優、柳清良、クラリスの4人が学園の
教師陣なの流石に納得&良すぎるなあ……
と改めて感じながらイラストを描きました。
清良さんとクラリスさんの神々しくて治癒能力高そうな
コンビが個人的に刺さっています。
この度は大好きなデレマスに関われて光栄の極みです!!ありがとうございました!!!!

いもさん

ミリオンの衣装好きなのたくさんありますが、
制服好きなので制服シリーズから描かせていただきました。
サマーver.みんなさわやかでとってもかわいい!

ゲスト様とコメントご紹介

飯塚晴子さん
（コメントはイラスト内にて）

小澤理彦さん
10th.U-149と、素敵なアイドルを
楽しく描かせてもらえる楽しい仕事でした。

土屋智義さん
デレ10th
高橋さんと共通の知り合いの方からご連絡いただき、
まさかそんな大事なアニメで担当アイドルのカットを
やっていいだなんて恐れ多くみたいなきもちでした….。
ひたすらデレステで3Dモデルグるんぐるん見まわしました…w

U149
OP1カットのために道路の形状を調べに回ったり、11話で個人的に宮益坂にロケハンしに行ったり、
渋谷は苦手ながらとても楽しかったです。実在性が増していたらうれしい限りです….。

田中裕介さん
グリマスからのロケット団Pなので
ロケットスター☆のバックダンサーとして
3人でステージに立つ姿を見れて嬉しかったです。
ありがとうございました🚀🙏

今回ゲストをお願いした皆様は、自分が過去にお仕事をご一緒した方、
もしくはアイマスが好きな方というざっくりとしたテーマでお声がけをさせて頂きました。
原稿のお題は、好き・思い入れのあるキャラクターでお願いしております。
それぞれ個々の方々への思い出、コメント等は本誌中の関連した箇所で色々と語らせて頂いています。
依頼した全員の方に断わられずに受けて頂けて、こんなに素敵なイラストを見れて幸せです
皆様ありがとうございました、本当に良い方々に関われて感謝です。

高橋正典

はじめに

お手にとって頂き有難うございます。
今回の本では自分のここ数年（5・6年ほど）の仕事をアイマス関係を主軸に
関わった時系列的になぞりながら、（放送時系列とは異なります）
思い出とその時の状況など、自叙伝的な内容で構成しております。

内容的にこの場だからこそ話せる事や少し踏み込んだ事など
赤裸々に書いている所もあるため、
ネット上にアップロードする、
内容を書き込む等の行為はご遠慮くださいませ。

でも感想は大歓迎です！（線引き難しいね）ゲスト様のイラストの感想などもありましたら
どんどんつぶやいて行って下さい。
補足として、書かれている事はあくまで自分が記憶を頼りに掘り起こしている所が有るため
記憶違い、勘違い等あるかと思いますので
100%鵜呑みにはされませんようよろしくお願いします。
大変だった思い出を語る都合上、ネガティブな事柄もありますがご了承願います。

又、自分がタイプミス変換ミスしがちなので、文章に誤字脱字、
乱文が結構ある上に、読み難い所も多々あるかと思いますがご容赦願います。

高橋正典

目次

■2017年（2019年　10月放送）
「ライフル・イズ・ビューティフル」の思い出

この辺りは短めに思い出を語っていきます。
最初、監督の話が自分の方に来たのが2017年でした。
確か「異能バトルは日常系のなかで」のタイトルを見てオファーもらった様な気がします、

そもそも異能の監督オファー自体が765のアイマスアニメをやっていた所で、
監督の錦織さんにトリガー側から自分の事を聞かれていた様なので
そこで推薦なり、悪い事は言われなかったので依頼が来たと思っています（推測もありますが）
そこから繋がっているので個人的に錦織さんに足を向けて寝れませんw
日頃の仕事を真面目にやっていて良かったなと思った記憶があります。

キャラクターの歌唱も前面に出して行く方針もあり、最初にキャストの皆さんとお会いするのが
ＯＰの歌唱収録で、アフレコよりも前でした。
本来自分が収録に立ち会う予定はなかったのですが、キャラの声出し１発目なのでキャラクターの
方向性等の意味でも歌と芝居の声に乖離が出るのは嫌だったので立ち会わせてもらいました。

そしていざ歌唱収録の現場に行くと、メインメンバーユニットの「ライフリング４」
を取材するカメラが入っていました。
多分スタジオ制作の伝達ミスだと思うのですが、カメラが入る予定と自分だけ聞かされて（伝わって）
いなくてめっちゃラフな部屋着みたいな私服姿でアホほど緊張してる自分が
今でもyoutubuの公式動画に残っていますw

制作中のエピソードとして今だから触れられるのですが、第8話が放送延期になっていますね。
原因はPeace&Kindnessというグロス（外注）会社が倒産したという
前代未聞な事件があったからなのですが…
これがまた厄介な事で、8話のカッティングが近づいたあたりにグロス会社から3Hzの方に
制作金の前払いを要求され、そこで成果物を確認せずに払ってしまい、そのまま倒産されるという
恐らく計画的にやられている可能性があり、その被害にあったという状況でした。
その時放送していた他社の２タイトルと合わせて3タイトルが同じ手口でその会社にやられていて、
同時期に放送が延期になっています。

結果カッティング時には作画素材等全く無いので勿論何もできなくなり落とさざるを得ないという
今まで自分は聞いたことが無い状況になりました。
さらに悲しかったのは、自分がその状況を知らされたのは放送を落とすと決めた後でして、スタジオ側が
クライアント側と話し合い、落とすと決めてから自分の方に報告という形だったので、何もできずに
従うしかないという散々な状態であれ程無力感に苛まれた時は無かったですね。

その後は監督という立場上ひとまず身の回りのスタッフやキャストさんには謝罪するしかなく
ご迷惑をお掛けする形になりとても心苦しかったです。
その当時丁度バンナムフェスというライブが東京ドームで行われていて、
ライフルのキャストさん多数出演されていました。
自分も見に行っていたのですが、そのライブの2日後には7話のアフレコがあり、その時に8話のアフレコが
飛びますというお知らせをしなくてはならなかったのが決まってしまっていたので、
色々考えると気が気でなくてあまり集中できなかったのを覚えています。

ちゃんと2日後にはドームのステージを見ていた自分がドームに立たれていた方達の前で
プロデューサーと一緒に謝罪するというなんとも言えない状況だったのを覚えています。

後になって思ったことですが、倒産したグロス会社の評判を他スタジオのPに聞いたら
自分ならそこに仕事は依頼しないですねという感想だったので、正直元受けスタジオ側が
そういう会社に出さざるを得ない状況、キャパの力不足だったのかもなぁとも思います。
何にせよあまりにも理不尽な放送延期のされ方だったのでここで供養させて下さい<(_ _)>

しかしながら捨てる神あれば拾う神ありではないですが、白紙になった8話の巻き返しで
スタジオ社長繋がりでP.A.WORKSの堀川さんに海外スタジオのDRを紹介してもらい一時的に
キャパをお借りする事が出来、2週間のブランクで巻き返せたのは助かりました。
その後PAで「神様になった日」の演出の話が丁度来た時に、その時の借りがあった為
偶然のタイミングではありましたが快く受けさせてもらいました。

ネガティブな話題ばかりでなんですが、「ライフリング4」としてのラストライブが
コロナ流行のせいで中止になってしまったのはとても残念でした。
しかしライフルの作品打ち上げが出来ただけでも良かったかもしれません。
社内のクリエイタースタッフの方達は本当に頑張ってくれていたので感謝です。

この作品以降、自分は2023年後半まで参加したアニメはことごとく打ち上げが無くなり、
参加スタッフへの慰労や感謝を伝える場が無くなったのは悲しかったです。
今でこそそこそこ復活して来ていますが、アニメを作るのは本当に大変で、そんなスタッフが最後に報われる
場所はあるべきだと思いますので今後ちゃんと復活してくれることを願います。

■2019年「とある作品」との出会い

ライフルが放送中の時にとある作品での監督の話をを頂きました。（タイトル名は伏せます）
とても有難い話ではあったのですが、放送まで1年半のスケジュールだった事（個人的にTVアニメで最低限の
クオリティしか出せないギリギリのスケジュールかなと思っています）と、制作スタジオがお世辞にも
あまり力のあるスタジオには思えないにも関わらず、全話数グロス無しで社内で作ると言われていたり、
そんな夢物語な…と思い、これは受けても作品を落とすだけでなく出来上がりがあまり幸せな形には
ならないだろう、と思いお断りさせて頂きました。

そこからどう変化していったのかは分かりませんが、今となってはそのタイトルは別クライアント、
別のちゃんとした制作スタジオで作られ、コロナのせいかは分かりませんが約3年後にアニメが放送され
大ヒットとなっていました。（全然1年半じゃないじゃん！って突っ込みましたがw）
実際自分の所に来た時の条件で作ってもちゃんとした出来になる座組ではなく、自分の力でどうこう出来る
範囲ではないと思っていたので、制作スタジオガチャと言う言葉は好きではないのですが、結果的に
その作品にはとても良いスタジオに巡り合った形になったし、
自分も断ったことで影ながら貢献できたと前向きに思っています。

唯一心残りなのは自分の所に来た時点ではキャラデザが今回ゲストもお願いした飯塚さん
だったので（今は勿論違う方です）、ご一緒する機会を逃したのは少し残念だとは思います。

■2020年（2022年　4月放送）
「ヒーラー・ガール」8話の思い出

放送まで大分日にちが経ちますが、2020年初頭に作り始めていたかと思います。
ライフルが終わって間もなくだったのですが、同じスタジオの制作進行からお誘いが来ました。
ライフルで関わって良かった事もありましたが大変で苦労して疲弊していたのもあり、
正直同じスタジオでするのには時間を置きたいと思っていました。

ただ、話を聞くと1人原画の話数が何本もあり、ライフルの時にキャラクターデザインで大変お世話になり、
今回ゲスト原稿もお願いさせて頂いた向川原さんの1人原画話数だとの事でライフルで苦楽を共にした仲と
勝手に思っておりますがw
そんな向川原さんとなら安心だと思ったのもあります。
後はスタジオの体制が心配だと思い、話を持って来てくれた制作の子がスタジオ内では一番信用できる
制作だったので、君がこの話数の進行もやってくれるなら受けますと条件を出させてもらって
受ける形になりました。なのでこの布陣でなければやらなかったと思います。

ヒーラー・ガールは1人原画もそうですが、作り方が独特なセクションが幾つかありまして
ミュージカルアニメという事や役者さんが若いので育てるという意味合いもあったのかもしれませんが、
入江監督がVコンテを作って、そこに監督がガイドとしてセリフ音声を自ら入れています、それに従って
役者さんが仮（1回目）のプレスコ？アフレコ？（定義が微妙ですねw）をするというものでした。
それに合わせて絵作りをしつつ、ある程度絵が出来た所で本番（2回目）のアフレコをするという進め方でした。

実作業が始まると基本向川原さんの素晴らしい上がりを確認していくだけという
こんなに楽していいのかと思ってしまうくらいに助かりました。
まだまだデジタル化になりきってない中、少人数が故タイムシート以外は
全てデジタルで進められたタイトルでした。
全てデジタルは未だにどのスタジオでも難しいのが課題ですね。

ここで1人原画について自分なりの思いを語りますと、ヒーラー・ガールで向川原さんは
レイアウトと原画までやりきるというちゃんとした1人原画でした。
厳密には数カット原画がこぼれていたりはしますが。
ただ、近年第2原画というシステムが当たり前になってきている中、原画までやりきる
というのはとても凄い事だと思います。
たまにレイアウトだけ全カット担当して、原画を全て撒いて1人原画と周りから言われたりすると
むしろ描き逃げに近い事をして迷惑が掛かっているのでは？とは思います。

話を戻しますと、そもそも制作時には放送日も決まっていなかったのでおかげでスケジュールがかなり
取れていて、1話数に半年くらいたっぷりと使えたので色々と作りこめたなぁと思います。

逆に完成しても放送日が全く聞こえてこなかったのでそっちの方で不安にはなっていましたがw
月日は開いたものの、無事に放送もされてよかったです。

■2020年7月4日
「アイドルマスターミリオンライブ！」TVアニメーション発表の思い出

コロナも真っ只中の時期にミリオンライブのアニメ化が配信番組で突然発表されました。
今見返すと坂上Pと小美野Pが並んでそこそこ神妙な面持ちでいたのが印象的です。
良く中止になった7thライブで本来発表予定だったのかもと噂されますが本当はどうなのかは
自分も分かりませんが、突然だったのは覚えています。
結果から見ると、この発表から放送まで3年経つ事になりますが、この頃の空気感が
ミリオンのアニメ化は何時なのと色々言われていた空気感も感じていたのでタイミング的に
何時が良かったかというのは難しいなと思います。

個人的にはライフルをやっていたあたりの時期にはアニメが動いているらしい？という
ものすごく不確定情報だけは聞いていて、その情報だけではどうする事も出来ず
踊らされてもしょうがないので、モヤモヤしたままずっと過ごしてはいました。

ただ、この発表の早いタイミングが自分としては結果最高のタイミングだったのはこれから
の作品と共にお話しできるかと思います。

まず最初にPVが流れた時にやっと発表が来てくれたと同時に成程3Dアニメなのか！と
意外というよりも違う納得感が先に来ました。
それは何故かと言うと、手描きのアニメスタジオが作っていたらもっと何処かしらから
情報が流れてくるから（守秘義務どこ…w）
同業ではあるけれどある意味畑違いである3Dアニメスタジオという事で全然情報が回って
来なかった事に納得してしまいましたw

ただ、瞬間的に1つとても絶望した事もあって、アニメの発表されたという事は通常の感覚で言うと、
もうアニメの制作は動いているだろうからスタッフとして参加するのは無理だろうなぁという事でした。
（真偽はともかく前から動いていると聞いていたのもあり）
しかし、発表の内容には「TVアニメーションプロジェクト始動」とありました。
これはワンチャンあるのでは？いや無いかも？という疑問が残りましたが、

そんな事よりも、もし参加せずにアニメが面白かったら滅茶苦茶嫉妬するだろうし、
アニメが面白くなかったら滅茶苦茶キレて表立っても言えず悶々としてるのかなと思ったので、
面白くしてやろうという気持ちと、つまらないものになったとしても自分が納得するには
参加するしかないだろうという考えの元、後悔はするものかという思いと共に
やれる事はやろうと決心しました。

まずツイッターでミリアニの仕事をやりたいと叫ぶ！でしたw
とにかくやりたいアピールをしまくるしかないのでどこに届くか分からないミリオンへの愛を叫んでいました。
そして同じくツイッターのプロフィール欄に「アニメミリオンライブのお仕事募集中」とも追記していました。
あとは白組に伝手のある人を探す、ですがこれが中々難しいw
知り合いの制作やその後に仕事のオファーをくれた制作の人に片っ端から聞いていた記憶があります。

すぐにどうこうなる事は勿論なく、そんな事でしばらく月日が経った時に
「フラ・フラダンス」というアニメ映画の情報が出ました、そこのスタッフで監督に綿田さんの
名前がありました。公開は約1年後という情報を見て、劇場アニメの監督という事はどれだけ忙しいかは
身をもって知っているのでw
その劇場公開年にミリオンが公開される事はまずないだろうと、そうなると最速でも1年半後？
これは本当にこれからまだまだ参加出来る可能性があるのでは？という僅かな希望が出始めました。

そして身をもって忙しさを知った劇場作品「誰ガ為のアルケミスト」をやっていた時のP経由で
ミリオンの背景美術を担当してるスタジオと別作品で関わってるので紹介できるかもという
話があり、ぜひ宜しくとお願いしている間に別のお仕事の話が来ました。

ある日動画工房のプロデューサーから「SELECTION PROJECT」の仕事のオファーが
突然メールの方に来ました。
動画工房と関わったことは無かったのですが一応ツイッターのプロフィールにメールは開放してたので
そちら経由で送られたようで、後日仕事の話を聞くためお会いしたらプロフィールに書き加えたミリオンの
アニメの仕事を求めている事を見たとの事で、白組と関わったことがあるので紹介出来ますとの事でした。
自分は「SELECTION PROJECT」は断る予定は無かったのですが、もしご紹介してもらえるならお仕事
受けますと交換条件の様な形で「SELECTION PROJECT」を受ける流れになりました。

結局動画工房さん経由で白組さんに繋がり、ポートフォリオとしてライフルの成果物を提出し、
結果ミリオンライブのお話を頂けることになりました。
何事も言ってみるもんだねと、そして行動あるのみですね。
これも全てアニメ化の発表が早かったから繋がったのだと思います。
タイミングが少しでも違ったら未来は変わっていたでしょう。ましてや前述した作品の
監督オファーを受けていたら確実に忙しくて参加出来なかったと思います。

■2020年11月～
「SELECTION PROJECT」（2021年10月放送）6話と
「アイドルマスターミリオンライブ！」（2023年10月放送）の思い出

この辺りからはSELECTION PROJECT（以下セレプロ）とミリアニの仕事を平行しているので
時系列でいくと結構ごちゃっとしますが

セレプロのコンテを2021年3月辺りに上げたのと平行して3月頭に
「アイドルマスターミリオンライブ！」（以下ミリアニ）の1話のコンテ打ちがありました。
この頃はまだまだコロナ禍真っ只中だったので、打ち合わせ以外は自宅作業がメインでした。
打ち合わせがある時に外出する位の生活だったのを覚えています。
ミリアニ3話と8話のみの担当でしたが、なぜ1話のコンテ打ちに参加しているかというと白組さんの
ミリアニの作り方がスタジオ内のスタッフで完結しているため、内容やキャラクターをなるべく全員で共有
するという意図があり（キャラも多いので）全話のコンテ打ちにコンテ・演出陣が出席するという形でした。

こういう形は手描きのアニメスタジオでは社員や拘束してる人でもないと考えられないというか
自分も初めての取り組みでした。
理想的な作り方ではありますが、基本は担当する話数以外の打ち合わせは出る事は無く、
そうするにしても1つのスタジオで完結していないと成り立たないでしょう。
自分だけフリー（外部）の人間で、打ち合わせにギャラが発生するわけでもないので、
もし別のタイトルとかで同じ話になっていたら打ち合わせは恐らく断わっていたかと思います。

しかし、ミリアニとなれば話は別で、むしろ出ますと意気込んでいました。
金額のみで考えるともうボランティアでしたねw

そうしてセレプロとミリアニを掛け持ちする形でこの年（2021年）は動いていました。
セレプロも基本チェック物はデータ素材中心にしてましたが、この時期は（コロナの影響が多大だと
思います）データ移行するスタジオの時期が多くヒーラー、セレプロと一部を除いて完全データチェック
という形にスタジオがあまり慣れない中手探りしつつみたいなタイミングが重なってたのを覚えています。

5月末頃にセレプロ6話の監督チェックコンテUPして、6月からセレプロの演出と
ミリアニ3話のコンテを平行して進めていました。
セレプロもそこから9月末まで続き、その間ミリアニ8話のコンテも続けて10月までかかったかと思います。
本当はミリアニ10話のコンテも予定していたのですが、掛け持ちでスケジュール的な都合上、
間に合わなかったので諦めざるを得ませんでした。

セレプロは室内カットは3Dレイアウトが結構出たのですが社内3Dさんのセンスが良く、
3Dチェックにはあまり時間が掛からなかったですね、ただ基本9人のキャラががっつりと映るカットも
そこそこあってヒーラーから比べると倍以上に増えてるので単純に見るところが増えていて大変では
ありましたね。（この後もっと人数が増えるタイトルをやる事に…）
基本データチェックの自宅作業だったのでセレプロスタッフの方とはあまり密に接することが
出来なかったのが残念ですが、動画工房さんの底力は中々頼りになった思い出です。
力のあるスタジオは良いですね。
あと個人的には監督の平牧さんが同じヒカセン（FF14プレイヤー）だったのが
知れて良かったですw

ミリアニの方は最初は月1でコンテ打ちが3月から始まっていました
最初打ち合わせ前に資料を貰って最初にキャラ表を見て思ったのが、私服がアップデートされてる！でした。
何故なのかは聞いてないのですが、今考えると良くも悪くもネタにされがちな服を余計な情報を入れない
ように変えていたのかなぁとも思います。
キャラを熟知してないとこの事は考えないよなぁと、後になって思いました。

最初に白組さんに打ち合わせでお邪魔したとき、勿論綿田監督とも初めましてなので
どのような人となりなのか等まったく分からずずでした。
正直アイマス含むミリオン界隈で、かつアニメ業界の人間となると大体知り合いの人や、お名前を聞いた
ことのある人で完結してしまうので、綿田さんはどこまで知っている人なのだろうと言う疑問はありました。
（後に公に言われていましたが身近な人以外にはミリオン好きは公言してないとの事でした）
なので少しでも資料とかで協力できることがあればなと思い、初期のミリオンマガジンや、
（飯塚さんの仲介で）お手伝いしたコール本を手土産に持って行ったりしましたが、
ミリオンマガジンは制作さんが揃えていたので感心しました。

最初にテーマとして発表されている事ですが、これまでの各作品を再解釈・新構築する
『新訳ミリオンライブ』となっているのを見て、丁度シン・エヴァが公開された時期なのもありますが、
「シン・アイドルマスターミリオンライブ」を作ろうとしているのかもしれないと受け止めていました。
全てをあったことにすると矛盾が生じるのでそれを無かった事にしないためには最善の策だと思います。
実際コンテ打ちに参加しましたが、脚本はしっかりと練られていた印象で自分が意見等したところは
少なかったと思います。
主に細かい設定や間違いの指摘等はしていたかなという感じでした。覚えている所だと、コンテの時に
翼が食べているとこのスプーンが右利きだったり（左利きキャラを見落とすのは結構あるあるなんですよね、
なのでなるべく注意して見るようにしているので気付いてよかったですが、後にU149で自分もやらかして
しまうのはまた後の話…）、他には静香が持ってるサイリウムが旧型の持ち手が細いバージョンだったり
（公式グッズなので間違いではないのですが、あまりにも持ちづらく指の間の皮がむけたりする人多数で、
すぐに改良された記憶があるので曰くつきのものを持たせるのもなぁと思い助言しました）

最初に1話のシナリオや後のコンテを見た時の感想なのですが、自分が描いた絵コンテがそんなに間違って
なかった、です。何のことを言ってるか分からないかと思いますが、ミリオンのアニメ化が決まるもっと
前にもしアニメになったとしたらどんな1話になるだろうと色々考えていて自分なりのコンテを
描いていたんですね。

綿田さんがSentimental Venusの話で2ndライブを見た後に自分ならどう映像化するか考えていたと言う
旨の話を特典映像だったかで話されてましたが、描きたいとおもってしまうと頭の中で構築してアウトプット
したくなるんですよね。
同じ業界の人なら凄く分かる話で、自分の場合はそれが僕の考えた最強のミリオンライブ1話（自作コンテ）
だったのです。

アイデアメモみたいなのが殆どなので見せれるほどではないのですが、所々解釈一致するところがあり安心というか、とても信頼出来ると思いました。
補足として、自分の考えたアイデアは少し考えれば思いつく人は居るだろうなという事だったりしますので、このアイデアは自分が考えた等とは決して思っておらず、むしろ同じ業界人だからこそ分かる、このストーリーを完成させることの大変さや表に出す事の方が100万倍凄いという事は言っておきます。

コンテ打ちにの前にパイロット映像の「Precious Grain」を見せてもらったと思います。
それを見て、このクオリティが上限と思ってこれ以上動かしたりするカットはあまり出来ないと思いますという旨と工数制限のため全キャラ出る画面は1話につき数カットまでなどの制限がありました。
1話数のカット数制限もあり、それも勿論普通の事ではあるのですが、手描きアニメだと結構なあなあになるとこだったりするのですが、外のフリーランスという関わりの為少し萎縮しつつ色々と気を遣いすぎて3話の素上がりコンテは描いてしまったかなぁと思ってます。
（しかし自分が後日劇場で見た完成画面は制限とは？という感じでちゃんと修正されそれよりはるかに動いてましたがw）

放送時にはコンテが蔦さんと連名になっていたのですが、コンテの表紙の表記では蔦さんはコンテ補佐となっていました。自分の認識では基本は自分が担当していますが、ただ外部の人間なので素上がりを渡してからの修正含めた動きを知らないので、恐らく監督修正時等に絵の修正等でお手伝いいただいたのかなと推測してます。
3話に関してはほとんど修正が入っていたのでそういう意図もあったのかもしれません。
コンテ作成時はまだEDがあった状態で進んでいました。（EDは結局無くなっていますがコンテは担当して無いです）決定稿では「Legend Girls!!」にのせて各アイドル達（TSVのユニット等）がお仕事やレッスン等をしている止め絵で見せる構成でした。

しかし公式でも触れられていますが、尺を本編に割く都合でEDを削り、劇伴として使った形になっていました。
自分も2年後の完成試写を見るまでは知らずだったのでTV放送時はEDが付くのかな？と勘違いしてたくらいでしたがw
コンテを作成中に丁度7th Reburnのライブがあり、1日目のユニット曲トップバッターが「Legend Girls!!」だったんですよね、それに1人で感動してしまって物凄くコンテのやる気が出た思い出があります。

打ち合わせは月1・2回ペースで8話のコンテは8月末の打ち合わせだったかと思います。
こちらも連名になっていますが本編は自分で新井さんと天井さんが補佐という形でEDなり修正？なりの形でされていると思いますが確認していないのでハッキリとはしません。
本来社内とかにいたなら監督チェックの修正なども自分が担当出来たりしたんでしょうが、外部なので声が掛からなかったのでしょう。仕方ないですがもどかしいですね。

打ち合わせ時にはED曲の「Catch my feeling」は仮歌の状態で上がっていて、ダンサーさんが踊っているダンスムービーもありました。
そう考えると曲の発注は正確には知りませんが、相当前から準備されていたんだろうなと思います。

■2021年10月～
CINDERELLA GIRLS 10th Anniversary Celebration Animation
「ETERNITY MEMORIES」の思い出

きっかけはゲスト寄稿してもらっている監督の長町さんからお誘いの連絡を貰ったからですが、最初の連絡はこの年の中頃に連絡が来ました。ミリアニとセレプロの真っ最中で、今年いっぱいはちょっと無理そうだったので一旦泣く泣くお断りしました。
しかしミリアニのスケジュールが少し前倒しになり、その結果残念ながら10話のコンテが出来なくなってしまった等の事があり、逆に10月頃からは仕事が空く状況になってました。
なので、すかさず長町さんに電話をして、手伝えるようになりましたと伝えて参加したという経緯でした。

最初にシンデレラの190人全員出すと聞いた時は正気か？と思いましたがやるからには気合を入れないと終わらないぞという挑戦的な気持ちもありました。
そもそもヒーラーガールの時から比べると扱うメインキャラの数がヒーラー４人→セレプロ９人→ミリオン52人→シンデレラ190人とどんどんインフレしていっているのがおかしい数字に見えますね。

一応途中参加という形ではあったので最初の橘ありす編(正式には○○メモリー編という名称ですが、
制作中使っていた呼び方にしています)は既に殆ど出来上がっていて、その後のOP編・島村卯月編・関裕美編
・喜多見柚編・神谷奈緒編・乙倉悠貴編・二宮飛鳥編・村上巴編・の演出を担当しました。

元々は10thライブのファイナルに合わせて短い尺で限られた人数でPVを作るという形だったんですが、
どうせやるなら全員出そうという事になりボリュームがおかしいことになった結果10thには間に合わせずに
ありす編だけ先行で流すという事になりました。なので結果50分の長尺にも関わらずPV
（正式名称には無いですが）という謎の形になっているんですね。

10thツアーライブの幕張公演の時に控室・メイクルーム・ケータリング・ステージ等の取材を
させてもらっていまして、色々と見る事が出来たのが貴重な体験でしたが、スタッフさんが
7時〜8時くらいから動き出すのと、演者さんと被らない様に合わせて自分たちも幕張会場に
7時集合というのが一番大変でした。

アフレコはありす編以外別で録っていますが、基本10thドーム公演（U149のアニメ化告知）以降の
タイミングで裏ではすでにU149も動き出している中収録だったのですがそんな中、佳村はるかさんが
収録後にU149の放送まりえってぃと一緒にめっちゃ楽しみにしてますと言われていました。
あなた達、U149に出番ありすよと喉まで出かかりましたが我慢したのを思い出しますw

■2022年9月〜
「アイドルマスターシンデレラガールズ U149」の思い出

2021年に10thPVに自分が参加したときには動いていて、キャラデの井川さんもU149と同時平行で
やられていました。本当にあの物量をこなすスピードと腕は頭が下がります。
自分は同じスタジオなのでそのままの流れでという感じではありました、最初に1話のコンテを
10thPVのアフレコの時期に見て、あまりのガチな画面作りに気が引き締まる思いでした。
人数は9人（でも十分多い）に減って190人から少しは楽になるかなとおもいきや、むしろ
9人が常に画面に居たりするのであまり大変さは変わらなかったですねw
自分は3話のコンテ・演出、5話の演出チェック手伝い、10話のライブパート以外の演出を担当しています。

U149でもライブ会場の取材をさせてもらっていて、自分もその時はまだ10thPVだけでしたが
同行させてもらいました。
10thのベルーナドームで1日目の終演後に控室・舞台裏・ステージ・客席等を
見させてもらいました。終演後にコロナの検査を終え、APかっしーさんの終演後の
ステージ中継配信が終わり次第すれ違う形で見学していました。
ステージの裏にテントが設営されていてその中に演者・スタッフさん達の待機所等もあり、
様々な場所を撮影させてもらう中、控室の壁にでかでかと明日のセットリストが貼りだされて
いたのをふと見てしまい、「パリラ」という分かりやすい文字を読んでしまってすぐに
目をそらしつつ後悔しましたw
中でも印象的だったのが衣装さんの部屋（テント内）でした、他の場所は基本スタッフは殆ど
撤収している中、衣装さんのテント内はフルメンバーが衣装の直しなどを全力でやられていて
あまりにも忙しそうなので中に入れずにそこだけ戦場の様でした。

監督の岡本さんとアドバイザーの長町さんとのバランスは個人的にとても良い方向に働いていると思っていて、
アイマスというタイトルのアニメはとても特殊だと思っていまして監督がアイマスPである必要は無いけれど、
それなりの知識経験が必要かと思っていますので、メインスタッフの誰かはガチなアイマスPの必要が
あると思っています。
監督が作家性を出して長町さんがそれにアイマス要素を上手く補うという形でU149は絶妙なバランス感覚が
成立していたのだなと思います。脚本の村山さんもその辺りのバランスが素晴らしかったと思います。
細かくは触れませんが、もしバランスが違ったらPのキャスティングが変わっていたかもしれない
という未来もあったので本当に良かったなと思います。

2022年末くらいまで正式な放送開始日が決まっていなかったんですが、年末辺りに4月放送になるかも
しれないという未確定情報が下りてきました。
最初自分は全く信じてなかったんですね、何故かと言うとミリアニが4月番と知らされていたので流石に
被らせる事はないだろうというのと、U149自体のスケージュールも4月番だと時間が大分無いので
可能性は低いだろうと高を括っていました。

しかし結果的には1年半も前の情報だったのでミリアニのスケジュールが変更されていて、
U149が4月番になっていてただただ時間が無い中大変でしたw
自分の中でのアイマスあるあるなんですが、765の時から数か月先の予定は全くアテにならない
というのが通例ですw
ミリアニの放送の正式な情報は9thの武道館ライブの公式発表で知りましたので、そこは皆さんと全く同じ
タイミングで知ったし、劇場公開も知らなかったのでちゃんと驚きましたw
なんなら4月番じゃないんだと皆さんとはちょっと違う意味でビックリしましたねw

U149放送直前のアニメジャパンでミリアニと合同のイベントだったのは偶然ながらとても嬉しかった
思い出があります。運良くチケット取れて現地に行けたんですが、席が後ろの方で最後尾の列が関係者列
だったようでサイゲのシンデレラチームのスタッフさんや、白組のプロデューサー、後に分かった
源PやAPかっしーさん等色々な方がいたのが印象深いです。

イベントで思い出しますが2023年11月にU149のトークイベントが開かれ、光栄にもパンフレットに
コメントの寄稿をさせて頂きました。寄稿だけでなく、一部紹介されましたが一押しシーン、
他には使われてないですが1番こだわったポイント、キャストの方への質問を考えて提出しておりました。
自分はタイトルが好きなのでノーギャラだったんですがそれでも喜んでと考えましたが、本来作家さんとか
が考える様な事を何故かアニメスタッフに投げられている感じがして、他の同じことをしたスタッフさんは
どう思っているのか少し心配になりました。しかも半分くらいは結局使われてないですからねw

■2023年4月～　7月～
「U149」放送と「ミリアニ」上映&放送の思い出

2タイトル共、有難いことに結果的に好評な声が多かったように感じます。
そんなタイトルに関われてとても幸せでした。U149放送当時は必死に後半話数を作りながらミリアニの
放送を待ち望んでいたんですが、結果的には良かったものの、U149放送時はミリアニの放送前の不安からか
何かとU149と比べられて勝手にミリアニを下げるコメントがよく見かけられました。
両方に関わるものとして本当に残念な気持ちになりました。まだ観た後の感想ならまだしも、見る前から
作品を悪く言う事にとても行き場の無い怒りがありました。実際制作Pの目にも入っていたようですので、
それが後々スタッフのテンションが下がる事に繋がりかねないので、不安の裏返しなのは分かるのですが
そういう事は本当に自重して欲しいとは思います。

実際、ミリアニが公開、放送されてからはまさに文字通りに手のひらを返す様に好意的な感想が多かったのが
救いではありましたが、始まるまでは本当にどう受け止められるのかが不安ではありました。
特に好きなキャラ、担当アイドルが1人の人にとってはどう受け止められるのかと心配はしていて、
正直厳しい意見が来るのは覚悟していたのですが、思ってた以上にマイナス意見は少なかったです。
否定的な意見でも的外れな事を言ってる人は居なかった印象で、アニメでは選択しなかった（出来なかった）
可能性の事を言われていた意見が多かったので真っ当な意見だとは思います。

7月にミリアニの試写会がありましたが、自分はコンテ作業が終わってからほぼ2年経っていて、その間は
ほぼ公式情報しか知らない状況でしたので、完成した映像がどうなっているか全く分からずに1視聴者として
見に行かせてもらうような気持ちでした。
第1幕を見終えた後の高揚感は今でも忘れられません。終えた後の帰りに他部署のスタッフさんの話しが
聞こえたんですが、「あんなに苦労したカットが一瞬で流れていく」という言葉に重さがありました。
前述したようにアニメ化発表してからマイナスな意見が多かっただけに、EDスタッフロールの宣伝協力Pの
名前の多さを見た時には本当に嬉しかったです。参加された理由はそれぞれ違うでしょうが、決して安くない
値段を不安の中出してくれるのが、信頼してくれているように思えたからです。

第2幕の試写会は丁度実家に帰っているタイミングと重なってしまったんですね。飛行機は結構前から
予約していたのですが、参加してる8話の完成をあまりに見たくて東京に戻る日を1日繰り上げて
フライトチケットキャンセルして試写会に参加しましたw

第3幕の試写会は終わった後に監督綿田さん、脚本加藤さん、白組の井出Ｐ、チーフＰの赤羽根さん、
Ｐの中村源太さんと居酒屋に流れ込みました。そこではただのアイマスＰ仲間として話が出来たのが最高の
思い出ですね、綿田さんとLTPリリイベやミリオン1stライブの思い出で盛り上がれるとは思ってなかったです。

今回ゲスト原稿でミリオンのイラストを田中さんと、いもさんにお願いしております。
田中さんは最初のアニマスの時からの知り合いで、ミリオンPでもあるので依頼させてもらいました。
ミリアニ制作中に白組さんが手描きの作画さんを探していた事があったので、田中さんとかに紹介出来ないかなとか思ったのですが、手描きのキャラはモブしかなかったのでちゃんとお願いは出来なかったです。
そんな事もありちゃんと担当アイドルのイラストが見たいという自分の希望もありお願いしました。
いもさんはいつの日からかXのタイムラインにミリオンの素敵なイラストが流れて目に入る様になったのと、明らかにアニメーターさんの線だなと思ったのでプロフィール見させて頂いたら昔アイカツで1回だけご一緒した事のある方でしたので、そんなに愛の溢れる方ならという事でお願いさせて頂きました。
お二方とも本当にありがとうございました。

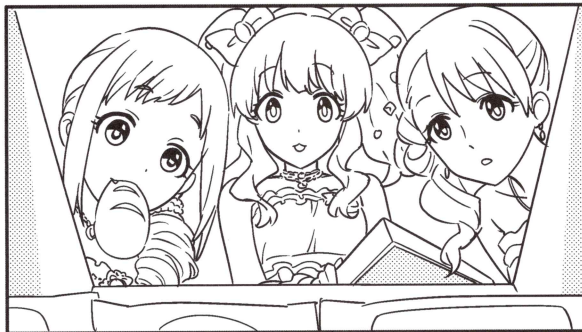
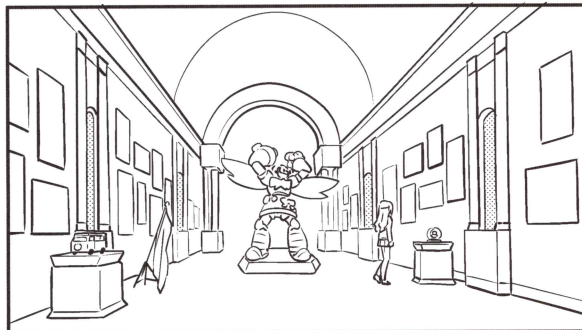
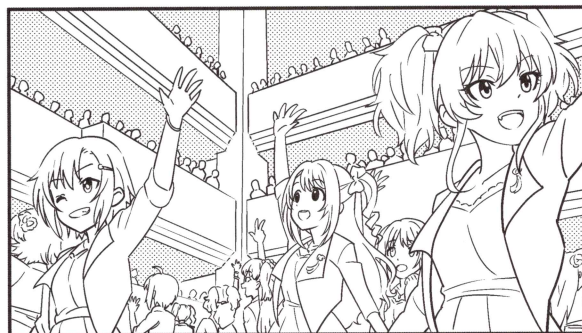
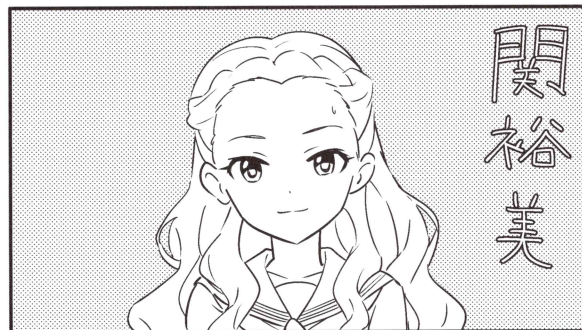
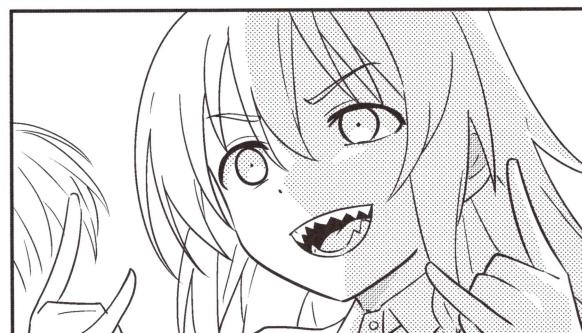
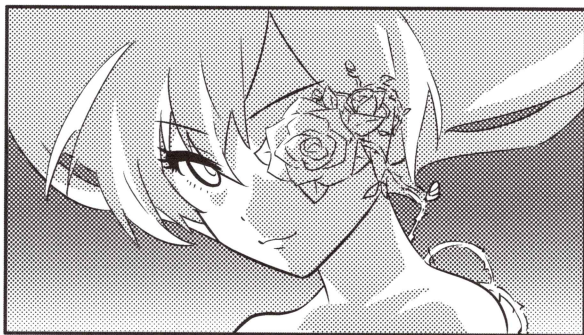
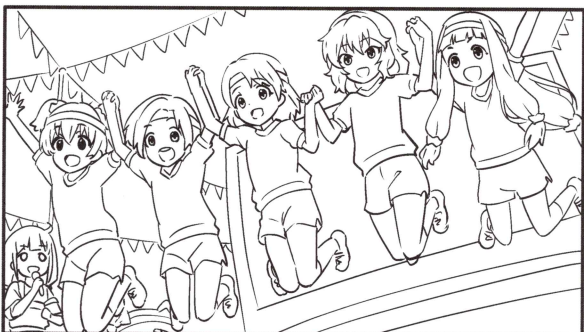
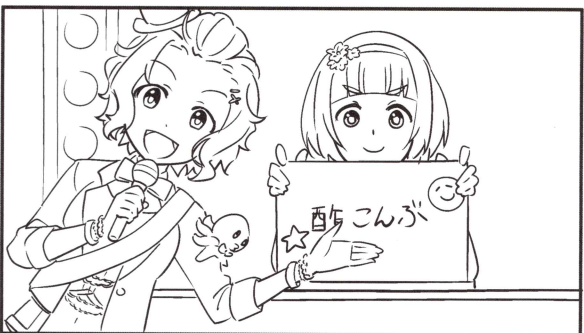
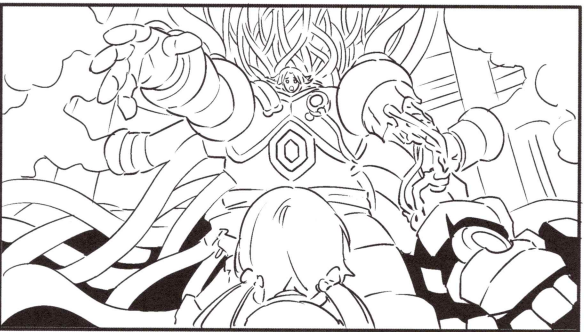
■あとがき

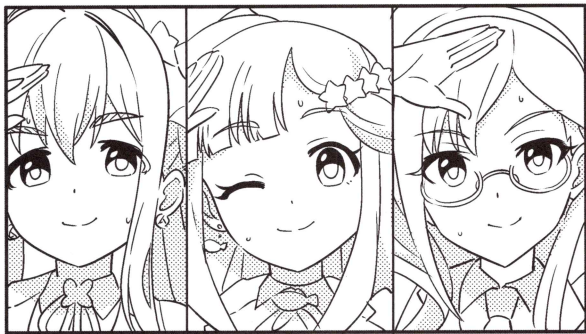
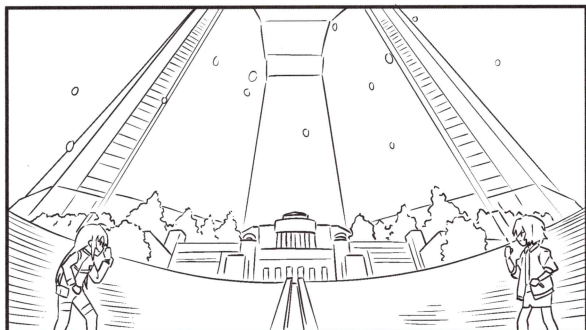
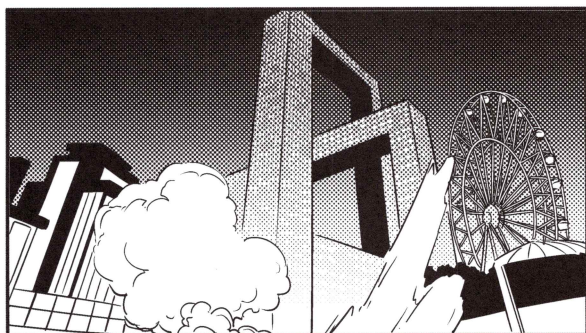
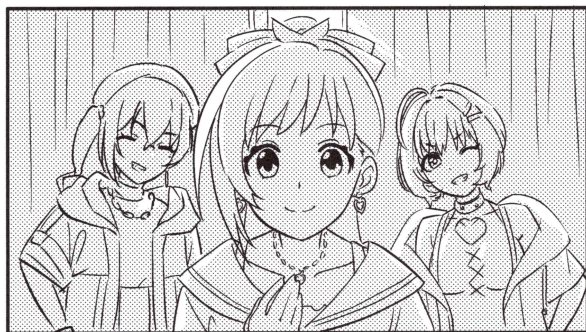
終わってみれば結構愚痴ぽかったりネガティブな事も多く楽しく読めなかった所もあったかもしれません。
ここ数年は有難いことにアイマスのタイトルを連続でやらせてもらえたのですが、
キャストさんとかは無い様ですがアニメスタッフのSNSでの発言は基本BNEさんのチェックが入るので、
（なのでU149とかでアニメーターさんが他作品みたいに自分の原画をUPするとかが出来なかったんですね）
都度チェックに回す必要があるとあまり積極的に発言しようとしなくなってしまい、
色々語りたい事がたまっていたというのも有ったりしたので今回の本を作る動機にもなりました

表紙の話を少ししますと、U149から1人、ミリアニから1人の表紙にしようと思っていました。
みりあにしたのはU149で担当話数だからという明確な理由があったからです。
桃子なのは3話8話と特に誰々話数という事でもないのでスポットが比較的当たっていた中でもっと深堀りする話も欲しかったなぁという欲もあったのと、もう一つは後ろのアイドル干支マラソンのウサギ耳姿が好きだからというのがあります。
この元カードはグリーの時のカードですが、
記憶違いでなければ錦織さんが描かれてる数少ない中の一つなんですよね。
そんな思いもあり、昔の衣装と今の衣装の対比のみりあと桃子を出したくてサトさんにお願いし、
とても可愛く描いてもらえて感謝です。
裏表紙の百合子はへちょ顔の絵にしようと思っていて3話の中で似合いそうだったと思い百合子にしました。
サトさんとはもうストライクウィッチーズの頃からの付き合いですが、2010年だったかの頃にアイマスのアニメやるのでやりませんかと誘われてからが自分のアイマスのスタートでした。（ニコニコとかで動画は見てましたが＾＾）
今となっては1人のPとしてエンジョイさせてもらってます。
ここまで長く付き合ってきたのでゆるっと長く続けて行ければなと思います。

U149もミリアニも本当にスタッフに恵まれたタイトルだったなぁという事に尽きますね。
U149もまだまだやれる（やれてない）事はあるし、ミリアニも待ちに待ちすぎたアニメでまだまだ描き切れてない事もいっぱいあるかと思いますが、こんなに愛を持ってちゃんとしたものを作ってくれるスタッフに恵まれるというのが何よりもの宝だと思います。
この業界内にいるからこそスタッフの集め方の難しさは痛感しますし、それが自分の好きなタイトルで良い方向に行っていることに最大限の感謝をしています。
ミリアニの時にも書きましたが、自分が参加して意地でも1ミリでも面白くしてやろうという気概でやっているのもありますが、少しでもそれが報われています様に。

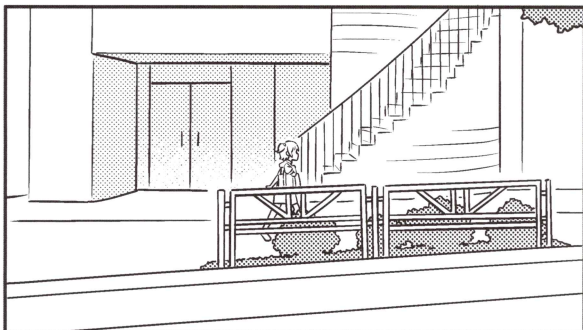
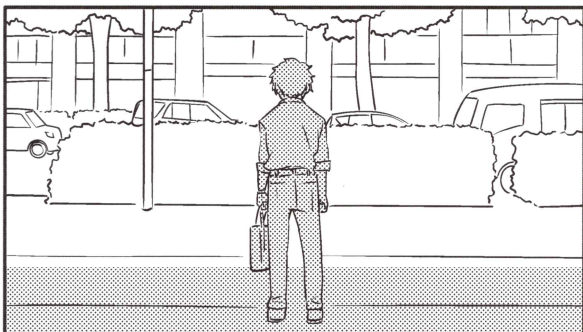
高橋正典

CINDERELLA GIRLS 10th Anniversary Celebration Animation
「ETERNITY MEMORIES」のコンテ風イラストと思い出

諸星きらり・大原みちる・西川保奈美の3人がのぞきこむ。
このカットはゲスト原稿もお願いした改リさんが担当されています
それとクラリス達のいるカットもです。
改リさんはアニメの原画自体が初との事だったのですが、自主制作の
アニメをハイクオリティで作られているので、挑戦ではあるけれど
ある程度信頼はしていました。
お願いしたからにはこちらも責任を持って1から教えつつという
気持ちで、作画打ち合わせでは計3カットの打ち合わせで2時間くらい
かけたかと思います。多分自分の中で最長の作打ちでしたが、
上がりが来た時には下手な原画マンよりもよっぽどちゃんとした上がり
が来たので嬉しかったですね。
EDのスタッフロールでお名前が抜けるというミスを制作側が
してしまった申し訳なさもあり。今回ゲスト原稿でお願いできて
嬉しかったです。

色んなシンデレラの歴史を展示している無人の美術館エリア
額縁に飾っている絵はCDジャケットイラストを元に
使用しているのですが、膨大な中から選ぶのが結構大変でしたｗ
一応歴代の代表的なものや、個人的に思い入れのある曲だったり
好きな曲を入れていたりします。
こういう所でアイマスPを試されている感じがしますね、
Pじゃないと成り立たないカットかもしれません。

イベントしているアイドル達
池袋噴水広場でのおねシンの発売イベントですね。
公式に松嵜麗さんに触れて頂きましたが、この時の後ろの
垂れ幕イラストをコロムビアに確認したんですが、流石に
残ってなかったようでした。
しかし、当時現地に長町さんと一緒に見に行っていて
イベント前に写真を撮っていたんですね。
なのでそこからイラストを切り取って使用するといった力技で
作っていますので、唯一実写素材（加工はしてますが）
が混ざっておりますｗ

緊張気味の関裕美が自己紹介
こちらのカットはゲスト原稿もお願いした松井さんが
担当されてます。
関裕美パートで作監もされていてとてもお世話になりました。
初作監という事でしたが、関裕美Pということも打ち合わせで
お聞きして勝手に安心しておりました。
実際原画共にとても丁寧な仕事をされていて、
関ちゃんらしく可愛く描かれていて感心しました。
若手にもっとこういうちゃんとした仕事をする人が増えることを
願うばかりです。

グローバルアクティブ派の星輝子
こちらのカットはゲスト原稿もお願いした向川原さんが
担当されています。他に白坂小梅のカットもされています。
向川原さんとはライフル、ヒーラーとお世話になったのは
勿論なのですが、前にＸ（旧ツイッター）に星輝子のイラストを
ＵＰされてたのを見たことがあったので、
それを覚えていたので即座にオファーさせて頂きました。
好きなキャラがいる人に描いてもらうのが作品の為にも一番幸せ
だと思っているので、受けて頂いて感謝です。

怪しい表情の一ノ瀬志希
こちらのカットはゲスト原稿もお願いした小澤さんが
担当されています。
アニマスの頃からの知り合いでライブ現地でもよく顔を合わせる
くらいなのでむしろライブ会場で会う機会の方が多い気がしますw
楓さん担当なのでこの前のカットの楓さんのカットも
描かれています。
Pの人に描いてもらえるとてとても安心できるのがありがたいです。
打ち合わせも0から説明せずできるのも大変助かります。

チーム混合で縄跳びしているメンバー
ハイファイ☆デイズのCDジャケット再現ですね。
この時にはU149が動いていたのもあり、キャラ設定等は
井川さん繋がりで変わらないのでU149からお借りして
使わせてもらってるんですね。実質これもU149w
本来アニメの設定ってキャラごとに作るんですが、今回は
1・2カットしか出ないキャラが多くいる中190人分の設定
を作るのは不可能なので。利用できるものは何でも利用
させてもらってましたね。

回答フリップを出す喜多見柚　INしてくる難波笑美
酢こんぶの文字は柚の声優、武田羅梨沙多胡さんに書いて
もらってます。アフレコの時収録終わりに書いてもらったの
ですが、関裕美役の会沢紗弥さんと同じ収録時間でお二方に
一緒に書いてもらってます。
会沢さんはあまりない事なのか結構不安そうにされていました、
武田さんは元のカートイラストを見ながら一生懸命書いていた
印象でした。

暴走してるメタルミズキ
作画的に滅茶苦茶大変なカットだったんですが、
ちゃんとメカを得意とされている伊藤さんと言う方に担当して
もらえて良かったです。
テクスチャーも撮影で入れてもらっているので
最後の最後まで撮影さんの方で調整してもらいながら
粘ってもらったおかげで完成で来たカットです。

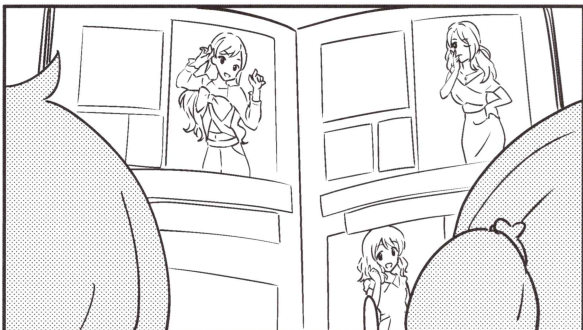
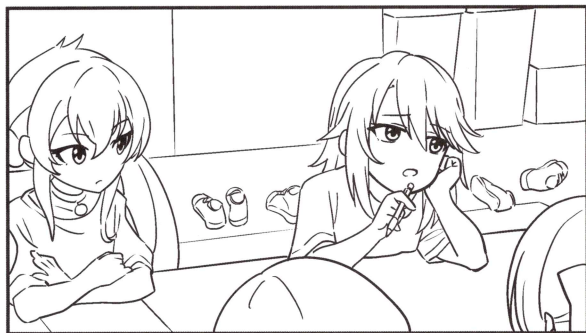
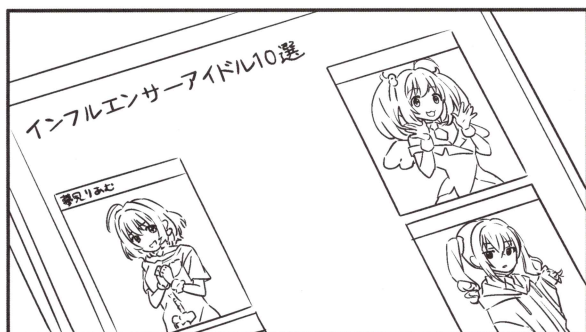
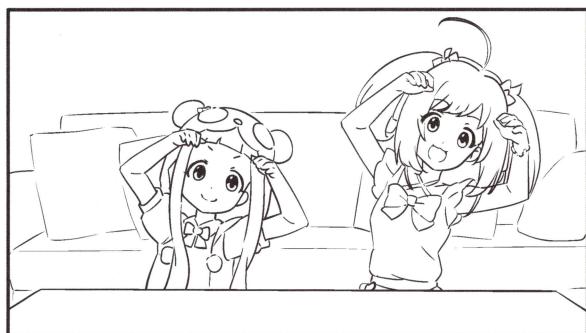
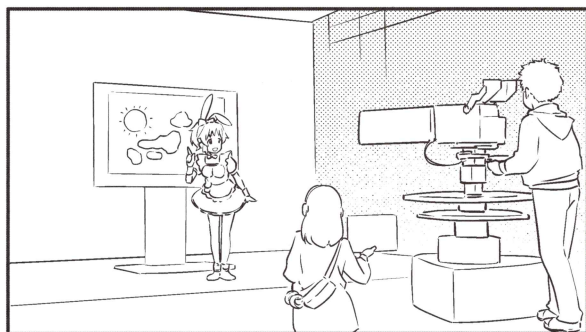
お願いする緒方智恵理・及川雫・椎名法子
こちらのカットはゲスト原稿をお願いした土屋さんが
担当されてます。
土屋さんともライブ会場現地でお会いすることが多い方
ではありますw
及川雫Pでもあるので担当Pの方に描いてもらって安心です。
雫の身長が結構高いので、智恵理、法子に合わせると顔が
上の方で切れてしまうので、前傾姿勢にしてフレーム内に
納めてもらっているんですね、結果胸も強調されてさらに
揺らしてもらえて最高のカットになってますね。

パフォーマンスしている八神マキノ・西園寺琴歌・浅利七海
Let's Sail Away!!!のダンスをしている3人ですね、
ダンスしてるカットなんですが、これは特にモーションとか
の下地があったあわけでなくゲームの映像を見ながらに
原画さんに1から描き起こしてもらっているので、
意外と労力がかかっています。
ステージが1stライブのアンフィシアターなのも思い出が
たくさん詰まっている場所です。このパートはライブ要素が
これでもかと混ざりあっていますね。

南条光と向き合う村上巴、臨戦態勢になる2人
村上巴編は特撮好きの人ならニヤリとされてると思いますが
特撮の名所が背景に散りばめられていますね。
カットも激しくアクションもありだったので大変なのは
変わらないですがやってて楽しくもありました。

聖夜の夜に大爆発するバスターズ基地
コンテにも書かれていますが、Just Us Justiceの背景を
ベースにした場所で、元はモニュメントを基地ビルに見立てて
ぶっ壊しているんですね。

舞台袖でプロデューサーに挨拶する辻野あかり・砂塚あきら・
夢見りあむ
このパートは自分の担当パートでは無いですが厳密には最初は
新田美波編とラストのライブパート（ライブは長町さん演出）
以外は最初は関わっていたのですが、時間の関係上いくつかの
パートをもう一人の方にお手伝いして貰っていました。
この時もまだユニット名が決まっていない頃だったので
ユニ募呼びだった3人がもう懐かしいですね。
新衣装に新曲と新ユニット名とサプライズ要素がてんこ盛り
だったのでワクワクドキドキしながら、公開を待っていた
気がします。

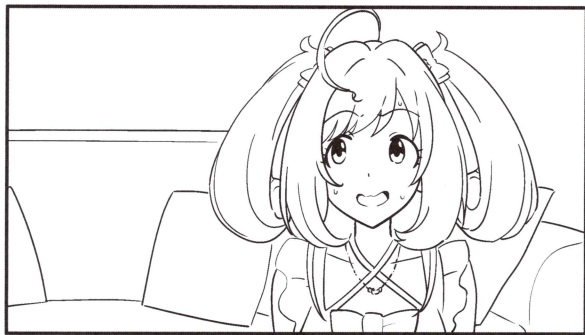
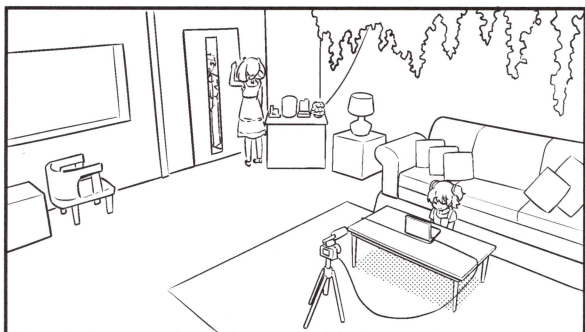
補足
10thPVに関しては、細かい設定やカットの意味、元ネタ等はBD特典で付いてくる絵コンテを観れば全てが
描かれていますので、そちらを熟読されるのをオススメします。
シンデレラに詳しい人ほど満足度が高いと思います。
190人本当に全員出ましたね、後にも先にも自分が関わるタイトルでこんな大人数が出るアニメはもう無いと思います。
そういう意味でも記録的な記憶にも残る作品になりました。
全員出すと意気込んでいたので、島村卯月編のカードイラストが映し出されるカット等で先輩アイドルや、
お隣の国のアイドルや隣町で活躍されてるアイドル達も映そうかと試みたのですが、今回それは叶わずでした。
忘れている訳ではないんだよという事だけお伝えできればと思います。

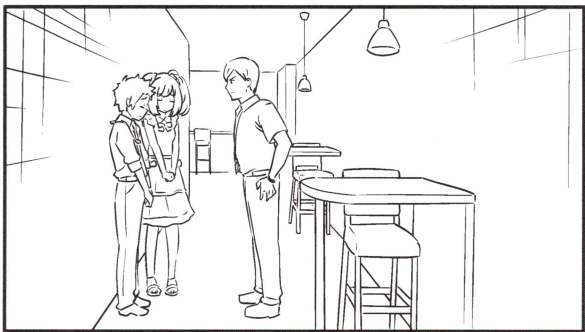
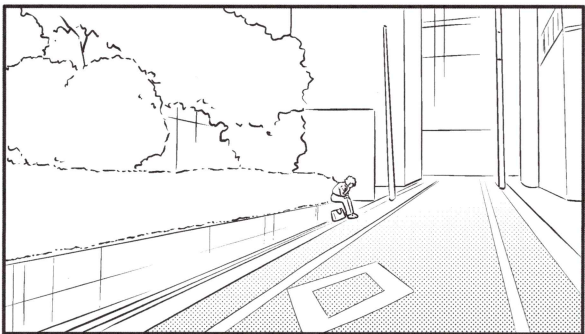
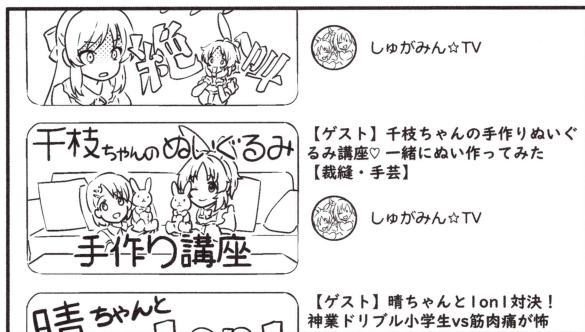
「アイドルマスター シンデレラガールズ U149」3話
のコンテ風イラストと思い出

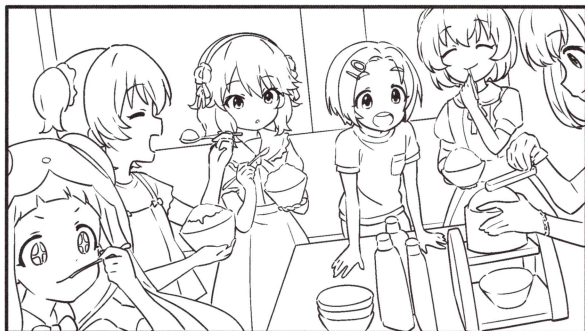
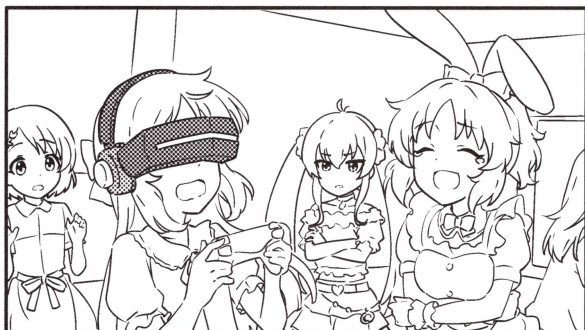
ベビーベッドの内側　みりあINしてあやす
こちらのカット（アバンシーン全て）はゲスト原稿もお願いした
くえるさんが担当されています。
ライフルの頃に本当にお世話になっていて、みりあが好きだと
聞いていたのでこれはお願いしなければと思い、みりあ話数なので
とお願いした所快諾して頂きました。
デレアニ17話のみりあの家をベースにしつつで進めています。
かわいいみりあが元気よく動く姿が冒頭から見れて最高でした、
チェックも凄く楽で助かりましたw

街中　楽しそうに掛けてくるみりあ
U149自体が渋谷周辺がベースにはなっているので3話も結構
ガッツリとロケハンしてます。
3話の担当制作と一緒に丸1日＋個人的にもう1日歩き回って
撮れるだけ撮りまくってきました。前後関係で合わせないと
行けない所以外は雰囲気重視で場所は転々としていたりします。
やっぱり渋谷は坂が多いので大変ですねw苦労したおかげで
色々と画面作りも少しは楽になっていたかと思います。

ビル入り口前　肩を落として立っているP
ここだけコンテの絵に寄せれる良い場所が渋谷に無かったので
（坂道多いのもありますw）新宿の場所にロケハンしに行きました。
西口のヨドバシ超えたあたりの通りのビル前で撮ってますね。

THE IDOLM@STER
CINDERELLA
GIRLS U149

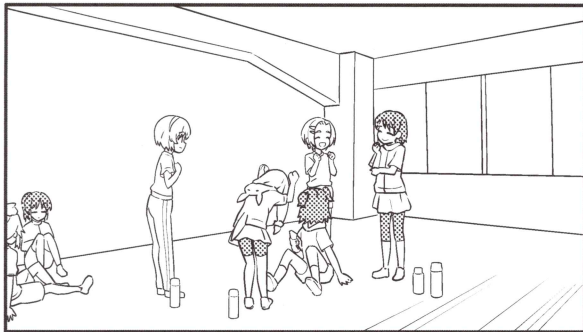
OPタイトル
OPは自分は担当してないのですが、裏で色々と動いていたので
触れておきます。
最初にU149をやる事になったときに真っ先に考えたのが、
コミックの帯を飾った飯塚さんにOPの原画お願いできないかなぁ…
飯塚さんの橘ありすが見たいなぁ…でした。
滅茶苦茶忙しいはずなのでとにかく早めに連絡をと思い、
メインスタッフ・制作等各所に確認しつつ、飯塚さんに連絡して
なんとお願いできることになりました。
ただ、OPスケジュールが延び延びになってしまい、いざ作業出来る
タイミングになった時には待たせてしまった飯塚さんのタイミングと
合わなくなって残念ながら諦めることになりました。
と思っていたのですが、今回の原稿のコメントで理由に触れて頂いてますね。
その時の叶わなかった思い出があったので飯塚さんにゲスト原稿をお願いして
今回快諾して頂けました。そして唯一橘ありすを描いて下さいと指定も
させて頂いております。本当にありがとうございました。

梨沙とみりあ隣り合って一緒にファッション誌を読んでいる
ガールズ・パワーの3人が記事になっていますね
コンテ打ちの時に決めていたかと思いますが、シナリオの村山さん
がメンバー決めをされていたかと思います。
次ページでも触れますが、ライブパンフレットの資料をもらいつつ
その中の写真のポーズ等を参考にさせてもらったりしています。

宿題に悩んでる晴　ペンを回してるとこからアゴを押さえたり。
気楽ね、とじっと晴を見る梨沙
この辺りの原画も10thPVに続いて松井さんに担当して頂いてます。
第3芸能課の中は3DLO（レイアウト）があるので比較的
背景原図等には苦労せずに行けたのは助かりました。
最近はもう多く使う場所の3DLOは当たり前になってきていますね。
ただでさえキャラ人数が多いので（10thPVやミリアニとは
比べませんw）助かりますね。
このカットは後ろの靴もそれぞれの性格が出る様に
配置させてもらっています。このキャラなら靴はこうするだろうなと
考えるのは大変だけど楽しいですね。

ありすのipad画面『インフルエンサーアイドル10選』
色んな所の使える素材は使ってしまおうと思い、（何故か手元に
ライブパンフレットがあったのでw）りあむとしゅがはの2人は
中の人の写真を元にさせてもらっています。
あきらは富田さんのどこかのインタビュー記事の写真のポーズを
参考にさせてもらっています。
記事の文字内容はシナリオの村山さんがまとめてくれています。

仁奈ちゃんとクイズ　メルヘンデビューの振り付きで
このシーンは10thPV・3話作監でゲスト原稿もお願いしている
小池さんが担当されています。
小池さんとは自分が演出になってすぐの頃に知り合っていて
恐らく10数年ぶりくらいにご一緒させてもらいました。
ゲストイラストはビックリするほどの大人数のアイドル達を
描いて頂いて嬉しかったです。
ここの振付けはMOIW2014のライブの時に知り合いのPさんから
メルヘンデビューの振りを教えてもらったのが記憶に残っていたので
有効な財産としてここで使わせてもらいました。

地方テレビ局撮影スタジオ　謎の低予算番組を撮影中の安部菜々
デレアニ16話の天気予報を参考にしています。
TV局のカメラはなかなか見かける事がないので資料探しが意外と
難しかったりもするのですが、セレプロの時にしっかりとした設定
が起こされていて、それを使う事は勿論できないのですが
その時の知識があったので非常に助かりました。

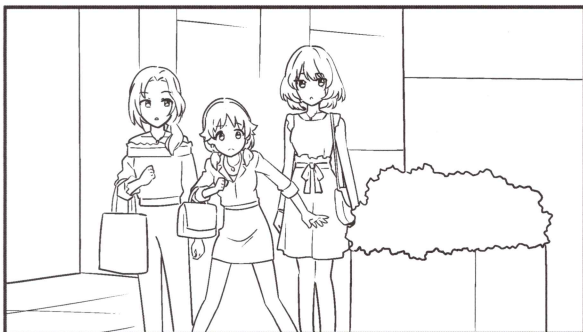
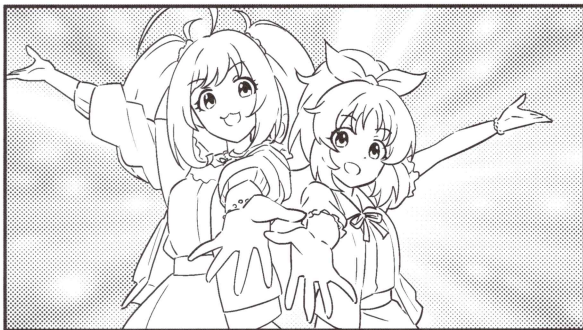
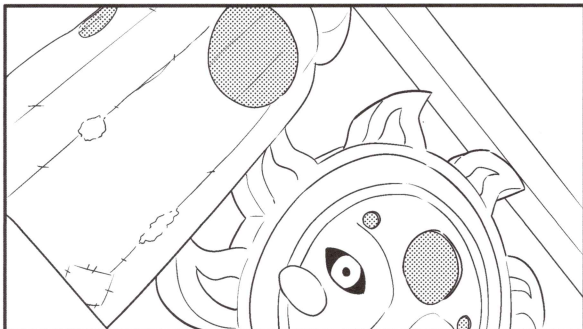
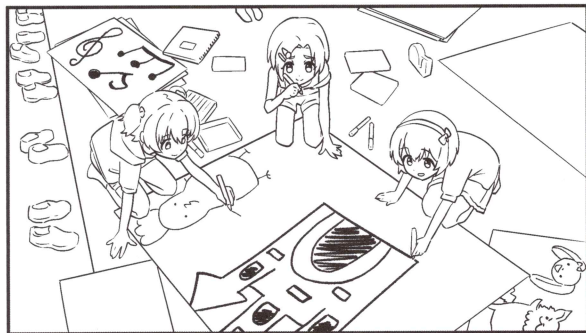
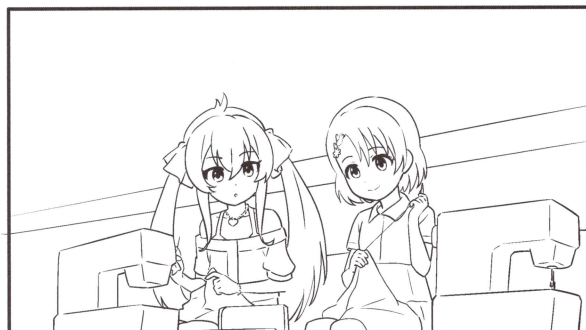
配信画面　カメラをのぞき込みカメラ目線でおしゃべりするみりあ
自分が結構配信を見る方なので配信画面のディティールには気を
配っていました。
視聴者のコメントが多く出ますが、テーマとしてはフィクションの中に
最大限のリアリティを出すでした。コメントは少しはシナリオで決まって
いましたが、全てのコメントとアカウント名を考えるだけで膨大な量が
あったので、コメントは何とか考えるにしてもアカウント名は知らない誰か
と被ったりすると色々と面倒な事になりそうだなと思いました。
それならば知り合いの名前を許可取って少し変えて使用すれば万が一他の人
被っても盗用などはしてないと出来るので良いだろうと思い、信用のできる
知り合いのPさん達に片っ端から連絡して、アカウント名を文字った状態で
使用させてくださいと許可を取らせてもらって使用しています。
それに加えて2Dデザインをされてる永良さんも色々考えてくれています
そして四角い牛さんという架空のオタクが誕生していましたねw

心、冷や汗をかきながらも笑顔で小さく頷く
3話のアフレコはコンテ撮の状態だったので芝居が細かく絵には
出てない状態でした。
このカットは元は1回頷くだけの予定だったのですが、花守さんが
アドリブで「うんうんうんうん」と高速で頷く芝居をしてくれて
それを採用して今の形になりました。
3話はみりあとしゅがはの2人がメインで喋ていますが、役者さん
お2人共に安定して素晴らしい芝居をされていたので助かりました。

突然ガタッと立ち上がる心　Pの背中を押してドアの鍵を閉める
配信スタジオのここの場所実はCygamesさんがシンデレラの
収録とかで使われてる実際のスタジオを元にしてます。
みりあ達がいる部屋が本来機材のある部屋で、左奥の後にP達が
入る部屋が収録部屋になっています。

ブースの向こう側から紙を掲げている仁奈たちの姿
公式でも触れて頂いてますが、10thPVでもやりました中の人に
描いてもらうシリーズ。
3話のアフレコ収録の合間で描いてもらっていますが、収録が
基本3・4人の少人数で撮っているので、収録が終わった組みから
次々と説明をして描いて頂くを繰り返して、次の収録の裏で
動くので収録は立ち会わないといけないし、サインも確認しないと
いけないしで自分が滅茶苦茶ドタバタした記憶があります。
照井さんはこういうのが初めてでもっと習字とか習っておけば
よかったと言われていました、春瀬さんは何枚も画用紙いっぱいに
描いてもらって選ぶのがもったいないくらいでした。

撮影スタジオ廊下　課長にがみがみとこっぴどく怒られるPと心
ここの廊下も配信部屋と同じスタジオの廊下をアレンジせず
そのまま使っています。
なので過去にデレパで青木瑠璃子さんが物凄く見覚えのある場所と
中の人にしか分からない場所の特定をされていました。

撮影スタジオ外　ビル外の垣に腰かけているP
ここも渋谷でロケハンした場所になります。
カット数もそこそこあるので制作の子と一緒にアイドル達の
立ち位置に立って、身長も合わせなければいけないので
しゃがみつつ全てのカットのLOを写真ベースで使用してます。
なのでロケハン中は実写のカットを撮っている感じで撮影してました。
勿論このシーンに合うように建物や周りの車や小物などは省いたり
デザインを変えたり等しています。

ありすのipad画面チャンネル動画リスト画面が上に送られる
ありす・千枝・晴・梨沙の動画サムネ画面を考えないと
いけなかったので実質このカットは5カット分の物量が
あるんですよね。止めの内容とはいえ地味に大変なカットでした。
[ハンドメイド・ドリーム]千枝のうさぎぬいぐるみが出せて
良かったです。

一同を見回すPの主観　桃華で止まっておや、となり座り直す桃華
このあたりは9人のアイドル達がひしめき合ってるので
とんでもなくカロリーが高いんですが作画の村田さんが丁寧に
頑張ってくれました。
桃華が座り直す芝居は作監の佐々木さんだったかと思いますが
ていねいに芝居を足していただいて桃華らしい上品な動きに
仕上がっています。

ED　かき氷食べてる一同　作っている心　初めて見たような桃華
U149のメンバー左利きのアイドルが多すぎるんですよねw
これが慣れてない人だと結構罠だったりします（10話で後述しますが）
仁奈の星十字目は作画のおおねさんがアニマス7話の伊織の目を
真似して良いですかと打ち合わせの時に相談がありました。
まさかその話出てくるとは思わず、自分がその話数やってましたよと
お伝えしつつやってくださいとお願いしてこうなっております。

ありす、VRゲームやってる、笑ってる奈々、心配してる千枝
のめりこんでる晴、あきれてる梨沙
監督修正のコンテでこのLOになっていますが、これを最初見た時
からメカ千早しか頭に思い浮かばなくなってしまって
打ち合わせの時に岡本さんにヘッドセットをメカ千早と一緒に
していいですか？と説明したところOKがもらえて
これになったという経緯があります。
ありがとう765プロ。

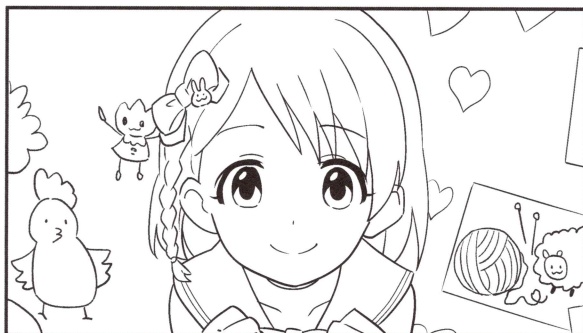
大きくジャンプしてるみりあ
この場所も渋谷のロケハンした場所ですね、少し改変してますが
キービジュの階段の向かいにあるヒカリエ周辺だったかと思います。
ED曲が「Romantic Now」という事で、日頃ライブを見に
行っている自分だからこうなったコンテなのですが、
黒沢さんの元気なジャンプ姿は入れたいなぁと思ってたので、
MOIW2014のジャンプポーズでと指定してコンテに
記入してました。
実際このLOの高さまで飛ぶには数メートル飛ばないと
いけないんですが、自分の記憶では黒沢さんのジャンプが
そのくらい高く見えていたのでOKです。

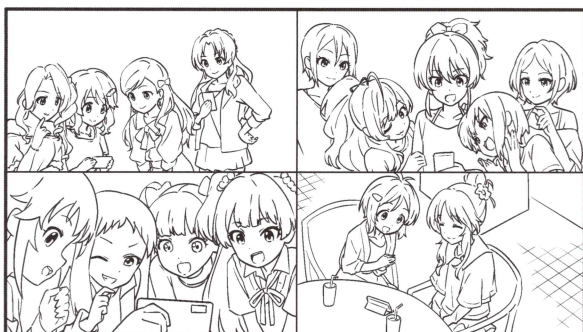
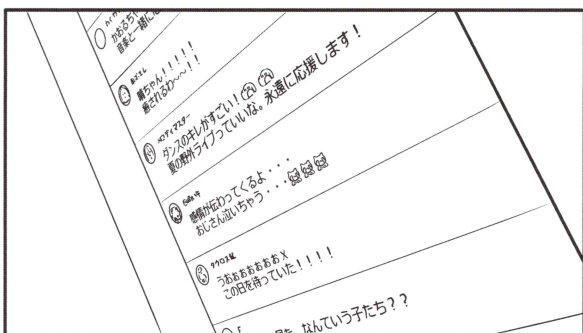
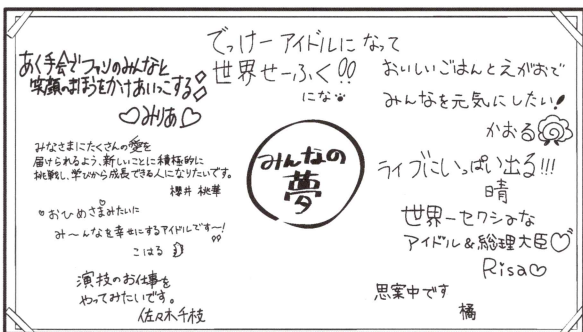
「アイドルマスター シンデレラガールズ U149」10話のコンテ風イラストと思い出

元気に喜ぶ薫、小春に話しかける仁奈
10話はコンテとライブパート演出が長町さんでメイン演出が自分となってはいます。
とにかくこの話数くらいになると時間が無くなってしまって、演出もお手伝いして頂いたり、作監さんも大人数になっていますね
とても申し訳なく残念だったのが、その時間の無さが画面に結構出てしまっていたという所ですね。修正も間に合わない所が多々ありました。
なのでせめてもの償いとしてBDのパッケージでは直せるだけ直そうという方針の元、細かい所も入れると100カット以上放送時の映像から変わっています。
このカットも千枝の動きから丸々変わってたりしています。

Pナメて課長・次長・部長　たばこを吸っている
このタイトルで大人側のシーンはたばこが印象的だったと思います。岡本さんがたばこを吸うのでそこが作品にちゃんとリアルに反映されているのだと思いますね。
ちゃんとこの部屋自体に煙が充満（といっても換気装置はあるはずなのでそれなりにですが）している描写も 入れてますね。

喫煙所から子供が出てくるという異常な光景に立ち止まり見つめる瑞樹・早苗・楓
このあともちょくちょく出てきますが「After20」のメンバーですね
同じく次の（下の）絵はしゅがみんの2人とこの話数はセリフ有りのゲストキャラが多くてアフレコも大変でした。
3話と同じで基本3・4人のグループ分けで6グループの人数を1日で回す形になっていました。
基本的にTVアニメのアフレコだと4時間前後で終わるのですが、1グループに1時間前後の時間をとって、10時スタートで終わったのが18時とかになっていたかと思います。
特殊な形だので一概に言えませんが自分の業界歴の中でも最長収録の部類に入りましたw
この人数を1日に合わせるのは音響制作さんの力だと思いますが楓役の早見さんなんかは10時スタートでセリフ量が少ないのもありますが15分程度でサクッと終わってすぐに次の現場へ向かわれて秒刻みで次の人を入れ替えていくスタイルでした。

しゅがみんのお2人花守さんと三宅さんは3話振りの登場でまた自分が関わることになってなんだか勝手に縁を感じますが、慣れたものでこちらもむしろ好きにやってくださいという感じでした。
コンテ撮なので後から芝居に合わせる絵を作りますのでというスタンスでしたね。
お2人もセリフは少なく抜き撮りのような形ではありますのでサッと終わらせていました。

倉庫でディスプレイ的に保管されている着ぐるみ
上田鈴帆の着ぐるみですね、このカット元々はデレアニのきらりと凛が来ていたゴジラっぽいのとモスラっぽい着ぐるみの予定だったのですが…
まぁ色々と使用するのは難しいとの事で^^;
変更して今のカットになっています。

夕方の事務所ポスターカラーで画用紙に絵を描いている
みりあ・薫・小春
「ゼロトゥワン!!」の新曲が流れつつ皆でライブの準備を
しているのですが、周りに小物がわんさか散らばっていて
小さいアイドル達が楽しそうにしている雰囲気が出ています。
画面の情報量が多いという事はそれだけ画面作りに時間と手間
が掛かるという事なんですが
一連作画さんがちゃんと描き切ってくれて本当に助かりました。
曲も最初の編集時は仮歌・仮音源でやっているので、音を付ける
ダビング時にキャラ全員の厚みがある歌と音が挿入されたのを
聞くと感動しましたね。

衣装を作っている千枝・梨沙
ここで一つ謝罪カットです。
3話のEDでU149は左利きが多すぎると嘆き、
注意してたつもりがTV放送時に千枝が右手で針を持っていたん
ですね、あまりにも時間がなかったとはいえ
演出チェックで抜けてしまったのが申し訳なかったです。
BDパッケージ時に修正しております。

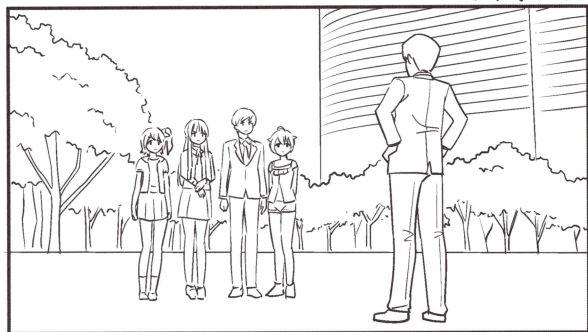
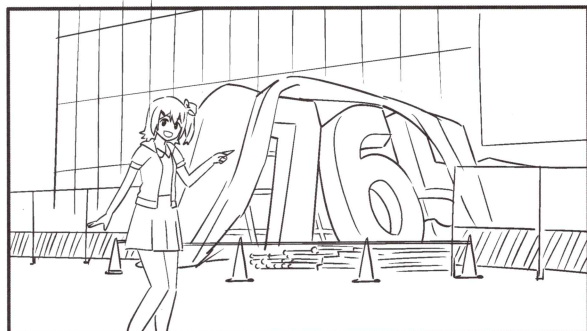
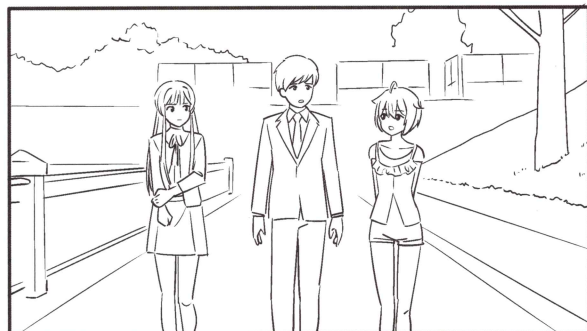
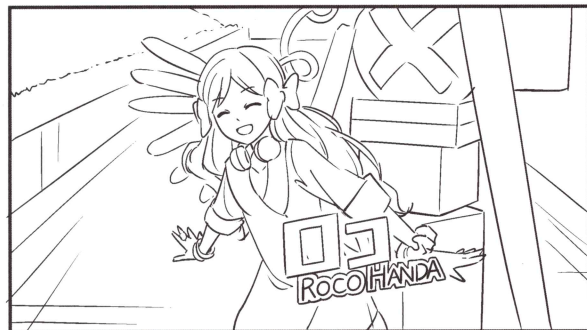
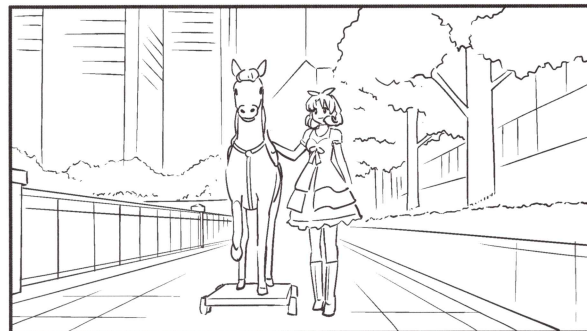
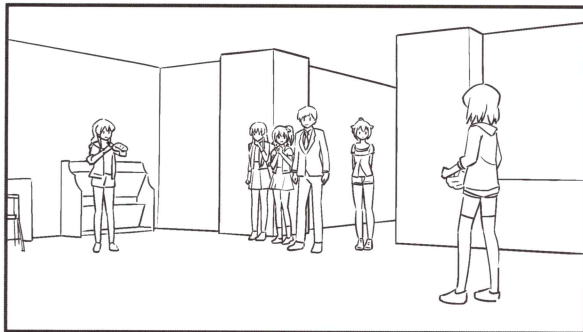
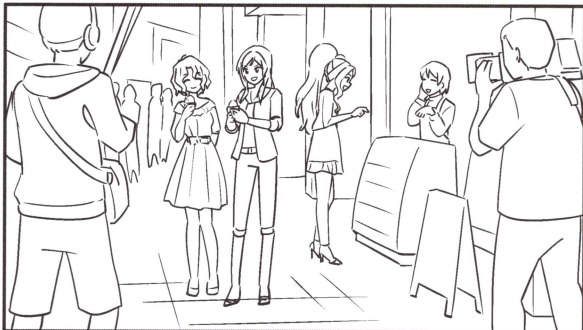
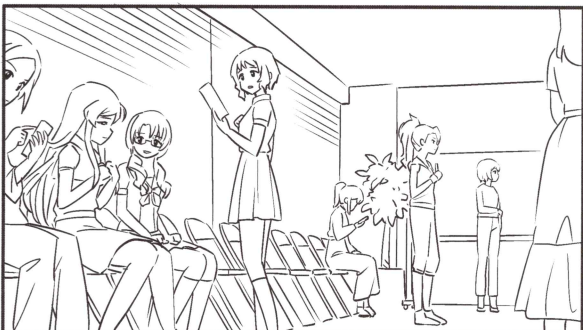
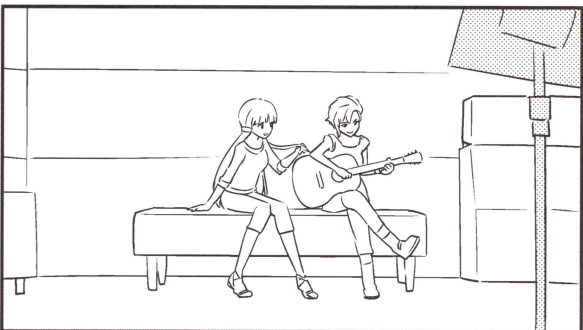
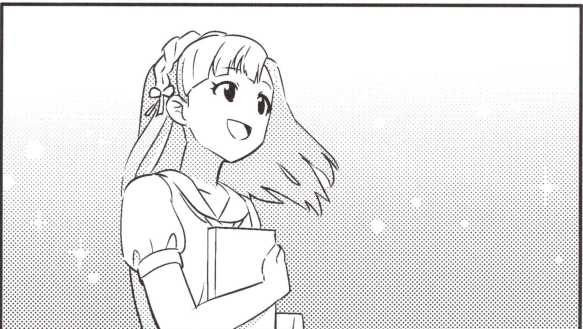
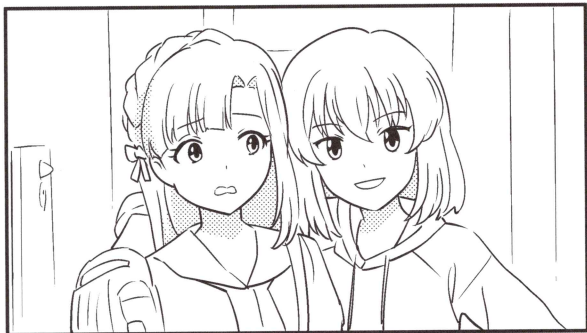
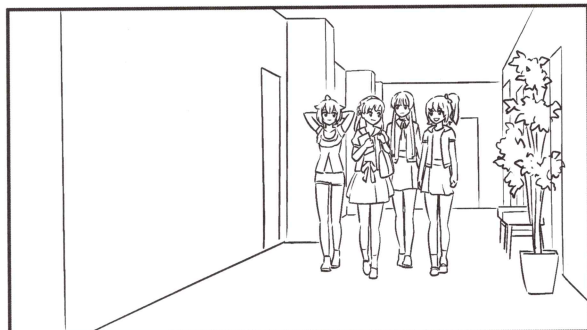
告知ポスターをロビーの柱に貼るP
ポスターのデザインを考えるのも結構苦労したような気がします
原案漫画の青空アートフェスの回で描いているイラストとかを
参考にしつつ、第3芸能課のアイドル達が描きそうな
ポスターを作成してます。

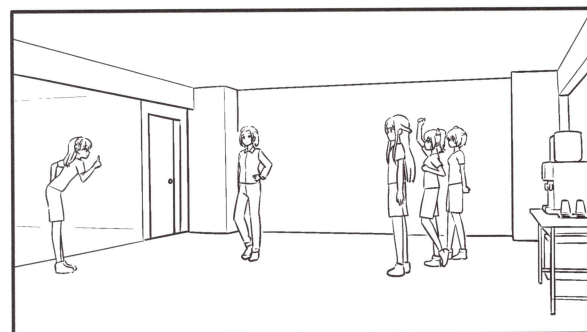
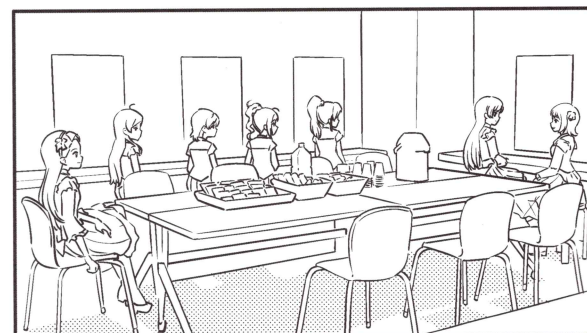
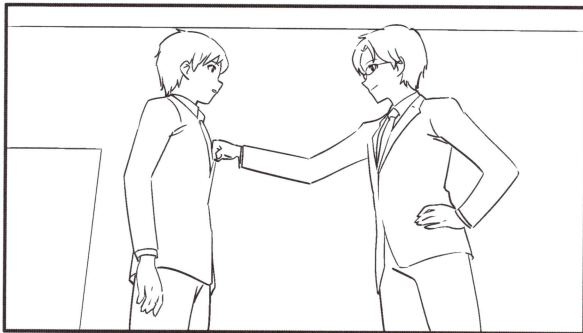
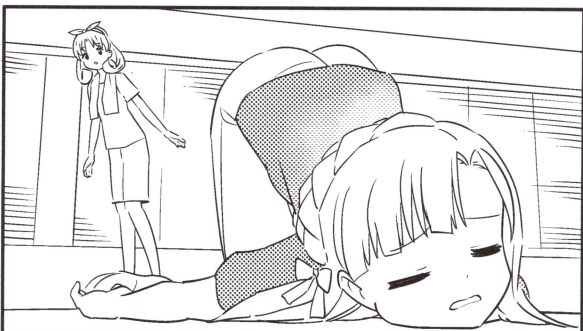
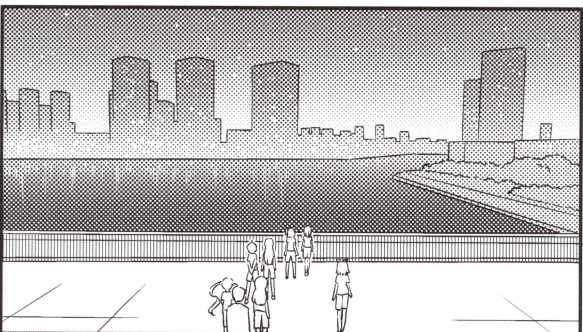
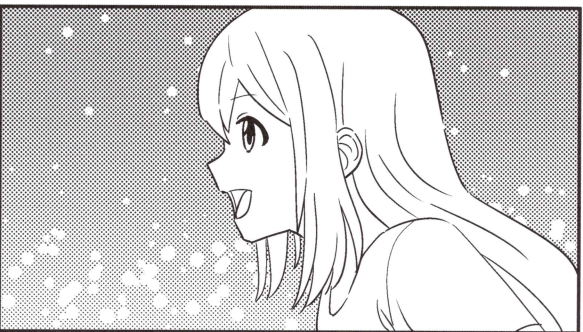
キッチンスタジオで五十嵐響子・首藤葵・及川雫・脇山珠美
・堀裕子・大和亜季にチケットを渡す薫とP
この辺りは怒涛のアイドルラッシュの画面になりますね。
コンテ長町さんで自分が演出で10thPVやってるのかと
錯覚するほどの濃い内容のシーンです。
大体数カットで45人くらい出演してますねw
今思うと相当大変な事やっていたなぁと感心してしまいました

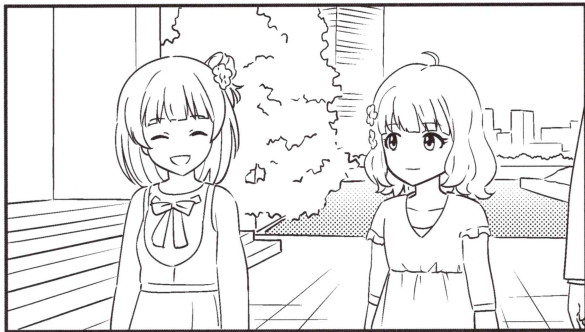
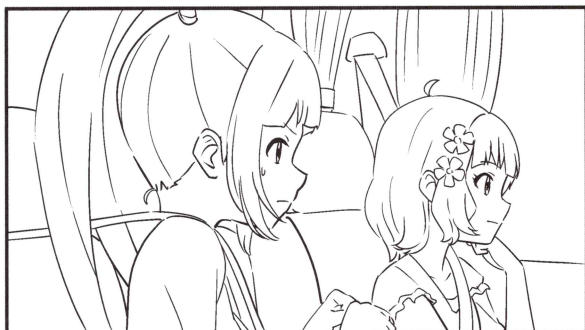
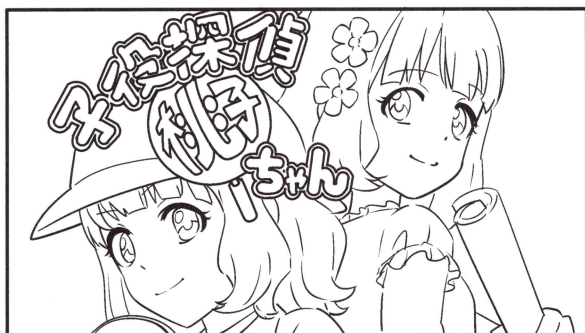
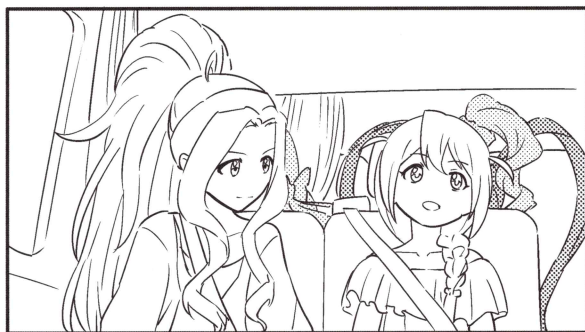
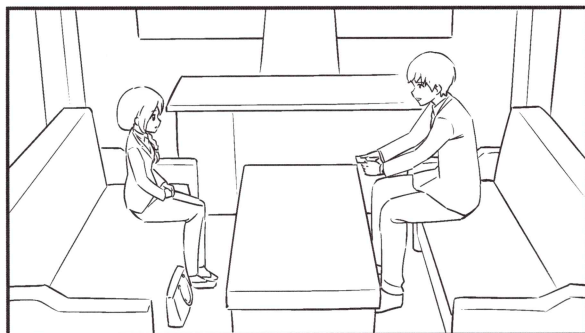
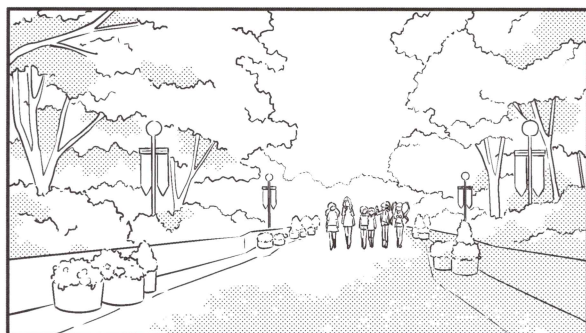
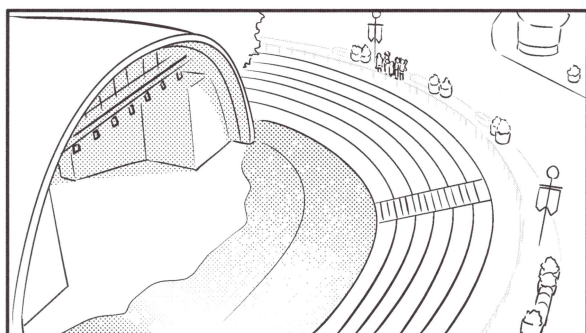
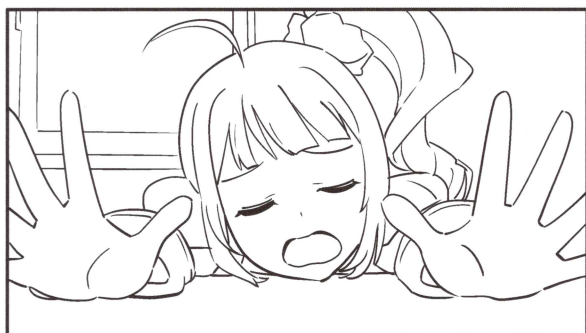
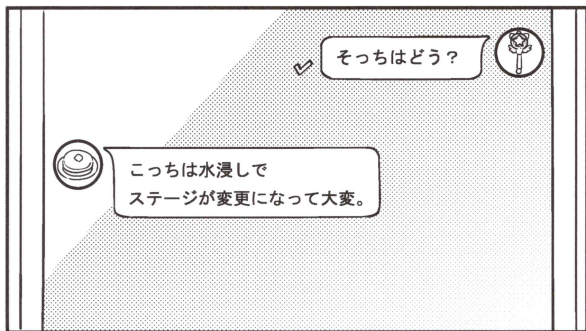
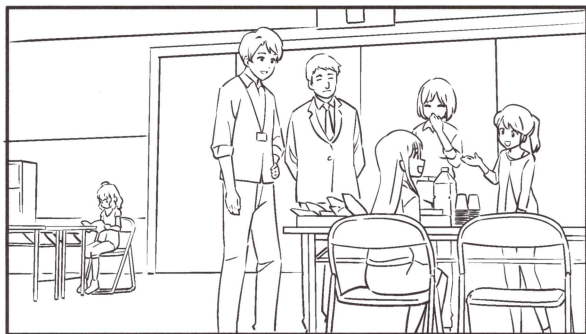
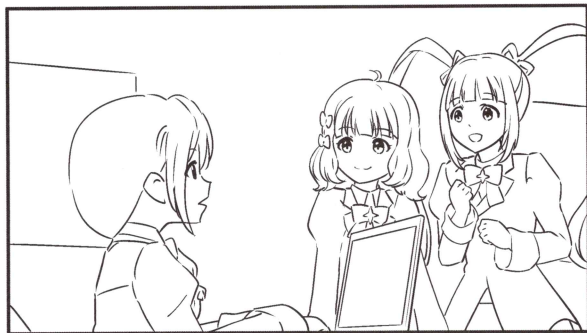
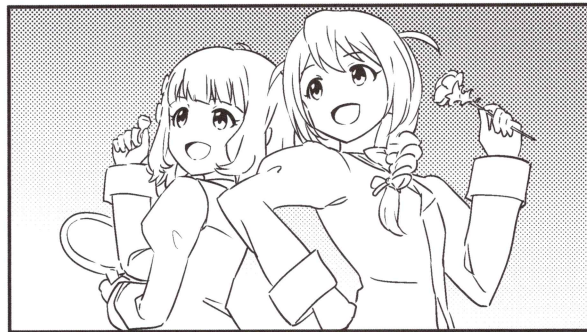
台所で素麺を茹でているP　スマホを置いて話している
時間が無かった事もあり、このシーンは演出のチェックを
ウマ娘 プリティーダービー ROAD TO THE TOPの監督を
されていた廖程芝さんに手伝っていただいています。
打ち合わせの時にお話していて、ミリオンPというか海美P
だという事が分かり色々お話しましたw
ほとんどアイマスの話をするという打ち合わせで終わりましたね。
勿論チェックはちゃんとして頂き大変助かりました。

事務所屋上　ライブ前の千枝のせーのの号令
大きな声を張って言うシーンなのですが、千枝のキャラ的に
大声を出さないのでどうしても叫びにはなりづらいんですよね。
なので今井さんには千枝なりの最大限出せる声でお願いしました。

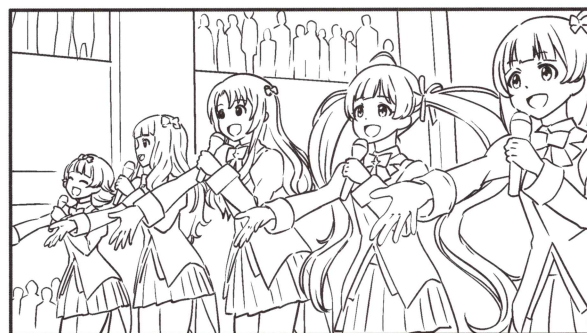
ちなみにこの次のカットのドレミファクトリーからライブシーン
になり長町さん演出パートになります。一番大変なパートなので
最後の最後まで粘って作っていました。
放送日の1週前くらいまで作業していたかと思いますが、
ライブシーンは本当にチェックしなければいけない所が多すぎて、
特に衣装関係の色がパカったり作画がズレたりと色々起きました…
自分も隅から隅まで見てリテイク出しに参加してました。

チケットを受け取った先輩アイドル達が配信をみつつ
拡散してくれている雰囲気
このカットも放送時に直しきれなかったカットです。
動画時に井川さんの総作監修正を拾われずに上がってきてしまい
直す時間もなくそのまま…となってしまっていました。
BDパッケージでは勿論修正済みですが、
良い雰囲気の画面だからこそこちらも悔いが残ってしまいました

良いコメントが埋め尽くしている
3話のコメント欄と同じくこのコメント欄も2Dデザインの
永良さんが担当してくれてます。
打ち合わせで、方向性どうしましょうという話をしたんですが
3話で好評だったのであんな感じでやりましょうという事で
四角い牛さんがレギュラー入りしましたw
放映後に反映できるとこういう時だけは時間が無くギリギリで
作っているのが功を奏しますね。

壁に貼られた紙に描かれたみんなの希望の文
こちらの文字もキャストさん達に書いてもらいました。
シーンは違いますがライブの準備をしている第3芸能課の
アイドル達とアニメを作っているキャストさん達とリンク
する感じがして好きなんですよね。
アニメは共同作業なので良い所と悪い所は色々ありますが
良い面が出ていると思います。

角を曲がって階段を駆け下りるありす
10話ラストシーンの中でありすを見せる（顔までは見せない）
大事なカットです。
LOチェックの時に苦労したのですが、作画さんの上がりの階段
を降りる動きが通常の走りの動きになっていて愕然とした
覚えがあります。階段降りる時はつま先から地面に着くのですが、
この人は階段を下りたことが無いのかと思ってしまいます。
通常ならリテイクで戻すのですがあまりにも時間が無いため、
作監さんに相談して直してもらう事になりました。
動きは勿論、スカートのリアクションも丁寧に付けて頂いて
自然な動きになってちゃんとこのカットの意図が表現できたと
思います。
裏ではこういう苦労は日常的にあるのですが、
少ない方が幸せですね。

「アイドルマスター ミリオンライブ！」のコンテ風イラストと思い出

原っぱで高木社長の話を聞いている
春日未来・最上静香・伊吹翼・P
今となってはおなじみの豊洲の原っぱですが、コンテ描いてる時は何もないから絵が作りづらいなぁと思ってました。
社長とチーフPは最初は作画で進める予定と聞いていたのですが完成した映像では３Dモデルが出来ていて、驚きました。
白組さんの気合が感じられましたね。

765看板前、駆けてきて振り向きつつ喋る未来
未来が７翼が6を喋って静香が「・・・」となって静香の性格を表してると思うのですが声がないので５さんが可哀そうといじられましたねw
描いてる時は想像してなかった反応でしたが思いもよらない反応は楽しいですね。

歩いている3人、駆けていく未来
コンテ打ちの時、ロコに近づいていくシーケンスとして所々にもロコアートを散りばめる案があったのですが、短い尺のなかに詰め込むのと、カット数がかさんでしまう上テンポも悪くなりそうだったので省略した経緯がありました。
その分信号機3人が引き立つ流れにはなっているかと思います。

ロコアートの手前に作業中のロコ、振り返り表情明るくなる
キャラの名前が文字で出ていますね、グリーの頃からの表現ではありますが、アニメ制作時にはミリオンスーパーという呼び名で言っていました。
綿田さんは当初その話数で初めて出てきたキャラには全員ミリオンスーパーを出すと言っていました。
最終的には無くなったようですが（多分画面がうるさくなりすぎるからとかかなと想像しますが）キャラクターが多い分全員を知ってもらおうとする苦悩が感じられます。

馬を降りたまつり、実景になりメリーゴーランドの馬を引き連れたまつり
この辺りはゲッサンミリオンの流れをくんでいますね。
今までのすべてを使って全員を巻き込んでいくような作り方は自分も大好きなので考えるのが楽しいですね、実際ゲッサンの方はもっとダイナミックな登場なのでアニメで地に足を付けた描写をしなければいけなくなって色々と試行錯誤しましたねw

劇場内レストルーム、キャッチボールしている高坂海美・永吉昴
こちらもゲッサンリスペクトなシーンですね。
監督からはゲッサンのテンポ感を生かしつつ見せられればという
オーダーが出ていました。
キャラ紹介も兼ねているので、短い尺でどこまで表現できるか
試行錯誤はしました。素上がりのコンテでは海美がボールキャッチ
した時に体が柔らかい表現として軟体ポーズをさせてたんですが
やりすぎたようでちゃんと修正されていましたが、今考えると
空気感ちょっと違ったなぁと反省してますw

商店街で食レポしている二階堂千鶴・百瀬莉緒・豊川風花
絵コンテ打ちの時に資料として導線MAPというのがどの話数も
作られていました。
各場所の設定や参考、そこにいるアイドル達と配置、小物等
ちゃんとした資料が揃った状態での打ち合わせなんですね、
正直コンテがUPした後の演打ち時レベルの資料だったので、
ここまで早くから作り込まれているタイトルは初めてと言って
よい程の作り込まれた資料でした。人数が特別に多いから
混乱しない様にという意図もあったのかもしれませんが。
アイドル達の仕事の様子を見せながらも、千鶴を知っている
人にはニヤリと出来るようなカットだと思います。
こういう人選が出来るのも監督の力なのかなと思います。

オーディション会場、緊張してる篠宮可憐・高山紗代子
・真壁瑞希・舞浜歩
劇マスEDの場所に似た会場ですね。場所の指定は無かったので
自分のコンテではこの場所ではなかったです、監督チェック後に
この場所になりました。
このカットが輝きの向こう側にも関われた自分の話数に来たのも
勝手に運命感じつつ、こういう所まで拾ってくれるのが嬉しいですね

レコーディングスタジオ、待機中の北上麗花・ジュリア
メインでスポットが当たってないアイドル達のなかでも
さりげなくちゃんと押さえる組み合わせを外さないのは
何かパズルのようにロジカルな構成をしているのかとさえ
思います。
実際、監督は最初の頃にキャラクターのセリフ量を均等に
調節しようと全キャラのセリフを表で管理して
進めたそうなんですが、ストーリー構成上破綻するので
出来なかったと言われていました。
そんな気の遠くなる事もしていたと聞いたと同時に全キャラへの
愛情や覚悟が半端ないんだと感動しました。

うっとりとした七尾百合子。PANUPして不死鳥探偵と
ロマンスグレー先輩のイラスト
ima先生にイラストを描いてもらえたカットなんですが、
自分はアニメは皆で作るものだという考えが強いのか、
色んな人を巻き込んでいくのが好きなんですね（声優さんに
文字を書いてもらったりとかもそうです）
そしてここまでにゲッサン要素が詰まっていて、まだまだ他にも
魅力的なものはいっぱいあるんだという事を知ってもらいたかった
のもあるのですが、百合子だったら「Brand New Song」要素も
入れるチャンスだと思い、コンテ時に監督へのメモとして提案
しておりました。おこがましいかもですが、これまでミリオンを
楽しませてくれた恩返し的な事もあったのかもしれません。

戸惑う百合子に肩組んでくる昴
すばゆりです。自分のコンテの時は2人の距離感を考えた時に
時系列的にまだ知り合ってそこまで時間経ってないかと考えて
特に肩は組ませてなく物理的にも距離をとっていました。
なので監督の修正でこの形になっています。
終わってみて全体を考えると、この2人の絡みがそんなに
あるわけでもなく、ここでやれる事やっとかないと
勿体ないですね。監督にそういう意図があったかは分かりませんが
ちゃんと見せ場を作ってくれてありがとうございました。

シアター廊下歩いている百合子・未来・静香・翼
完全に制作側の感想なんですが、キャラのこのくらいのサイズ
で歩かせて、ちゃんと足の接地も見えてという動きは作画
アニメだとほぼほぼ事故が起きるんですね。（キャラの作画が
潰れるだけでなく、歩き幅が地面とズレたり）勿論そのまま
放送する訳ではなく、修正に物凄く時間や労力が
掛かりやすいのです。なので作画だと変な心配して内容が
入って来なかったりするんですがw
こういうカットがさらりと出来たかは分かりませんが、
普通に見えるのは3Dアニメの恩恵の一つだと思っています。

劇場裏口元気な野々原茜
テキスト文の所でも触れましたが、パイロット映像を見せてもらって
動かせるのがこのくらいまでという制限を設けられてはいたので
コンテでもそこまで動きの指示は入れてなく、監督修正で
少し動きが足されて、元気にウザ可愛い芝居でお願いしますと
の指示書きくらいでした。
その記憶でいたので最初に茜ちゃんの動きを見た時に、
コンテの10倍くらい動いてない？？？でしたw
リードアニメーターの落合さんと言う方が担当されたとの事で
愛情が無いと出来ないお仕事だと感服しました。

レッスンルーム、百合子・未来・静香・翼・ダンストレーナー
こちらも技術的なお話ですが、鏡があるレッスン部屋は
アイマスにもつきものです。映り込みがまぁやっかいな代物でして
鏡に映った画面も入れ込むと単純に労力が倍になるので、作画だと
結構避けがちなんですね、劇マスのレッスンルームも極力減らしたり
カーテンで覆ったりとしてました。
ただ3Dの知識はそこまである訳でなくキャラはコピーとか流用
出来たりしないのかなと思って聞いてみたのですが、あんまり
作画の労力と変わらなく大変だといわれ、鏡の映り込み入れて
バリバリ動かすとかは避けるアングルになってますね

楽屋にいる春香・千早・伊織・美希・志保・可奈・奈緒・美奈子
素上がりの時は春香達がリハから帰ってきてお迎えするカットも
あったのですが、尺の関係かコンパクトに収まってますね。
やはりこのメンバーだと劇マスでの可奈にきつく当たる志保の
シーンが重なるんではないでしょうか、今はこうして仲良く
言い合えている関係性が見せられて嬉しいです。

廊下胸に手をやるチーフPとP
最初に設定等を初めて見た時の話しになりますが、正直赤羽根P
が出るとは思ってなかったです。（赤羽根さんも何処かの公式で
出ると思っていなかったとお話されていましたが）出すのも無理
だと思っていました。
なので設定で見た時が最初だと思いますが、あまりに嬉しくて
赤羽根さんにDMを送ろうかと思ったほどでした（やめろ）
そしてPはその時まだオーディションも開かれてなかったので
どんな方が担当されるのかと思っていましたが、本当に源Pという
愛情たっぷりすぎる方に出会ってくれてありがとうの気持ちです。

レッスン場へばっている百合子、奥に心配そうに見てるまつり
百合子のキャラと同じくらいまつりのキャラを物語る好きな
カットです。
百合子を気遣う事が出来、レッスン後なのに汗一つかいてない
ところもポイントですね。
宣伝ですが、ミリアニBD3巻の特典映像にはまつりの隠れた
力が解放されているのも見どころの一つだと思います。
未見の方は是非購入してみてください。

劇場の屋上未来の寄りから回り込みつつ引き絵へ
このカットは見せ場のシーンなので、3Dの強みを生かした
回り込みで豪華に見せようと思いカメラワークも設定しました。
3Dで楽にできたとは思えませんが、手描きだと不可能に近い
ですから、実現できて効果的に見せられてよかったと思います。

夜景バックに大きく叫ぶ杏奈
ONバージョンの杏奈ですね、杏奈も数少ないセリフの中
ONOFFキャラだとしっかり見せたくて
「杏奈も早くシアターのステージ、立ちたいな！」
のセリフはこの前のカットでOFF状態の杏奈に喋らせていた
んですがON状態で一気にしゃべってる形になっていますね。
どうしてもコンテだけやってるとこの話数で全てを見せたく
なってしまうのですが、他話数でちゃんとOFF杏奈も
見せているのでそのへんのバランスがミリアニというタイトル
は絶妙だなぁとは思います

「アイドルマスター ミリオンライブ！」8話
のコンテ風イラストと思い出

シアター前歩きながら育に仕事のアドバイスをしている桃子
8話のEDテロップでもコンテは連名になってましたが3話と
同じで元は自分が本編のみ丸々担当させてもらっています。
育や歌織とかの髪型がシルエットに被るキャラはカットの見え方
によって頭が大きく見えてしまう（錯覚ではあるのですが）
カットがあったようで、カット単位で頭の大きさも調整している
との事でした。このカットがそうかは分からないですが
細かい調整は大変だと思いますがありがたいですね

窓外を見ている桃子、隣から亜利沙が声をかける
地味に席を移動してる亜利沙がいい味出してますね。
桃子が席に座るときも隣ではなくて距離を開けて座るのに
悲しそうな亜利沙の所も好きです。キャラを立てるやりとり
は描いてても楽しかったです。
素上がりの状態では、亜利沙は話ながら移動にさせていたの
ですがギャグ寄りの今の状態になったのを見てありがとう
ございますの気持ちでした。

子役探偵桃子ちゃんの番宣ポスター風1枚絵
「その事件、台本通りにはいかない」のキャッチコピー
は元々なかったのですが、追加で脚本の加藤さんにお願いして
付けてもらっているようです。
この後の私服姿（3D）から探偵服姿（作画）への早着替え
切り替わりカットなどは一旦カメラを寄って工数をなるべく
減らす工夫をしてますね。
ハイブリッドアニメという括りで作られていたのですが両方が
絡むカットは逆に大変になる可能性があるので見せ方に工夫が
ひる様ですね。

前方席で話している千鶴とこのみ
個人的に好きな見た目のカットですw
このみさんの後ろの奈緒と亜利沙の髪型が合体して面白髪型
になっているのが良いですね。
チーム4thのメンバーは髪型のボリュームが多いアイドルが
揃ってるのもあるのですが、3Dだとちゃんとキャラの立ち位置
などがしっかりと決まっているのでこういう偶発的なアングルが
生まれるので面白いですね。

このみのフラッシュ回想　765プロ事務所社長室
名刺を出しているPとこのみ
コミック「Brand New Song」のシーンですね。
3話で少しでもと要素を入れましたが、8話でこんなにちゃんと
やれるとは思っていなくて滅茶苦茶嬉しかったです。
BNSの2巻の発売に合わせてサイン会にも行かせてもらって
サイン頂いた思い出もあり、EDはライフルでお世話になった
KOHさんの楽曲だしと、8話は本当に好きな方々との（間接的な）
絡みが出来たのが嬉しいですね。

遊園地入り口付近から木々に囲まれた通りを歩いてきている一同
また髪型のお話なのですが、髪のボリュームが結構クセものでして
こういう横一列に並んでいるカットは髪の毛の幅があったので
まともに並べられなかったんですねw
特に亜利沙が凄いので一番端になっています、完成画面をみたら
ここに限らずですが亜利沙の髪は結構方向を替えて後ろに
流したりと可変になっててうまい具合に調整されていましたね

水浸しになったメインステージ　驚愕の一同
場所のモデルではないですが、ステージだけ大きさの規模感
として東京ドームシティのラクーアガーデンステージを参考
にしています。

ズザーとテーブルに突っ伏す奈緒
こういう状況の奈緒っぽいしぐさってどんなのかを考えていた
と思います。アングルは修正入っていますが、シリアスな中にも
元気さや大きなリアクションでかわいく見せようとした動きで
考えてたらこんなポーズになりました。

スマホ画面　桃子からのメッセージが出る
素上がりのコンテ時に、アイコンの絵をどうしようかと
悩んでた記憶があります。
色々考えたんですが、桃子はクマのイラストで
育はゴーレムのアイコンにしてましたw
ちょっと違う意図が出すぎてましたね。

回想　楽しげな共演者やスタッフ奥に１人桃子が台本読んでいる
桃子の孤独さを見せるカットですが、桃子にはもっと奥深い
背景がありますが、ここで親の事などは匂わせたりすると
とんでもなく色んな意味が生まれてくるので一旦忘れる形には
してあります。
話数とか尺が許されれば桃子のお話も見せたかった（見たかった）
ですね。

PC前に座ってるこのみ　脇にいる桃子と亜利沙
シナリオを執筆中のこのみさん、コンテの時に尺の都合で
カットしたんですが、このみさんがものすごい勢いでタイピング
しながら「会社員時代の特技、スーパーブラインドタッチ、
提出期限モードよ！」というセリフもありました。
PC画面に映るシナリオの書き方が普通にプロ仕様だったので
このみさん流石だなぁと思いましたｗ

ステージ上　笑顔の桃子・このみ　少し高揚して
個人的に少し謎な事を記しておきますが、BNSの姉妹探偵
を彷彿とさせますが、このコンテを描いてるのが2021年
なんですよね、BNSの姉妹探偵のお話がまだ出てきてないと
思うんですよね。ちゃんと各所に確認したわけでもないので
なにかしらの繋がりはあったのかもしれませんが、完全に偶然
の可能性もありまして……怖いというか奇跡というか、
なんとも凄い事だなぁと思ってます。

夕日受けこのみキラキラ輝いてニコッ！と笑う
最高に可愛い笑顔で
シナリオ上では駐車場のままだったのでそこでなるべく印象的な
構図になる様に苦戦してましたが、そこまでしっくりきて
無かったんですね。
結果この場所に修正してもらって良かったです。
やはりコンテだけしか関われてない分どうしても委縮して
大胆に場所を変えてしまえとならずにいたのかなぁと当時の
状況を思い返してます。とにかく監督に感謝です。

ED　ステージで歌っているチーム5thライブ 止め
別ページでも触れてますが、コンテ描く時にはすでに仮歌の
状態でゲームバージョンの振りをダンサーさんが踊っている
ムービーがありました。（全チーム）
コンテ描いてる時はずーっと繰り返し繰り返し見ながら
テンションを上げていたので体には刷り込まれていたのですが
あくまで仮歌でしたのでそれから完成した画面を見るまで
約2年経ちましたが12話等で完成した映像を見れた時の
ためにためた感動は凄い来るものがありましたね。
ちなみにバトンタッチはイントロでバトンを次々と渡していく
動きが大好きです。

8話のエンドカードはくまみねさんでしたね。若干自分がエンドカードには厄介なところが出てしまうのですがｗ
ミリアニのエンドカードはちゃんとアニメに関わってる人からミリオン（アイマス）に愛情がある方々が多くて
嬉しかったですね。
正直アイマス関係のない名前が売れてる人が描くパターンも良くあるので、そういった方向にならずにホッとしてます。
個人的には砂浜先生のイラストが見れたならミサワ先生のも見たかったなぁという欲が有ったりはしましたがｗ
どなたが決められてるか分からないですがGJでしたという感じです。

ミリアニを見ていて少し業界の人間目線で感動した所がありまして、キャラの口パクが恐ろしいほどに合っているんですね
まぁ合わせるのは当たり前だろうとは思うのですが、手描きアニメですとある程度喋っているように見せる口の動かし方
というのがあったりするので、違和感が無いように口を開け閉めするという感じなのですが、ミリアニでは声の発生と口の
ニュアンスがシンクロしていてなおかつ気持ち悪く見えない絶妙なバランスでした（過去にAKIRAがリップシンクをリアル
にやりすぎて気持ち悪く見えたので少しシンクロを和らげたというエピソードを聞いたことがありますが）ので
3幕見終わった後の飲みで白組さんに聞いたところ、元々プレスコではないですがアフレコの収録がオールコンテ撮だった
ので、その音声に合わせてアニメーションを作って行った為、結果的に実質プレスコの様な形になったとの事でした。
3Dというオールデジタル環境だからこそ出来た事だと思い感心しました。

■ゲスト様　長町英樹さんへのインタビュー

Q1

●CINDERELLA GIRLS 10th Anniversary Celebration Animation 「ETERNITY MEMORIES」
につきまして、どのような経緯で制作する流れになっていったのでしょうか？

★CloverWorks（元A-1）でデレステ５周年アニメＭＶと
５周年記念ＣＭ＋正月ＣＭを作り終わった後に別ルートのCygamesPicturesから連絡をもらい
監督する事になりました。
最初はU149スタッフとしてオファーされた少し後にサイゲで10周年記念アニメの企画が立ち上がり
そちらは監督をお願いされたという流れです。
実は自分に声をかけてくれたサイピクのプロデューサーは元A-1 Picturesの制作だったので
自分が元々アイマス好きな事と歴代アイマスのアニメシリーズに参加経験がある事を
知ってくれていたのが理由だと思います。

Q2

●「ETERNITY MEMORIES」制作中にあった印象深かった事などありましたらお願いします。

★当初このシンデレラガールズ１０周年アニメ企画は25分だったのですが、
企画原案を自分がアニメ用に構成した結果、尺が倍の約50分アニメになってしまったのが
良くも悪くも印象深いです。

企画的には「出来るだけ多くのアイドル達を出演させながら過去イベを振り返り１０周年記念曲を
LIVEする」を２５分フォーマットだったのですが、軸となる物語が無く過去を振り返る２５分の
アニメを飽きさせずに面白く観せるのは自分には難しかったので
「１０周年に合わせて１０人のアイドルがそれぞれ１０個のデレマス世界をめぐる」という物語の
軸を作り、目的として「各世界でそれぞれメモリーを集める」そして結果として
「周年曲をLIVEして元の世界に帰る」と言うありきたりの展開かもですが、
この分かりやすい流れであれば過度な説明セリフ尺を削っても伝わりやすく
多少なりとも物語的な到達感やカタルシスが出るのでは無いかと考えました。

そして自分も覚悟して提案した事なのですが当初の「出来るだけ沢山のアイドルを出演させる」
では無く「全アイドル１９０人出演」に自分の我儘で変えさせてもらいました。
その結果、必要な尺と製作費は倍になり記念アニメ企画としては
前例が無いレベルになってしまいました。
そんな各所に異常なカロリーを要求してどうにか完成したのが
「ETERNITY MEMORIES」という訳です。

Q3

●「ETERNITY MEMORIES」制作にあたって苦労した事などありましたらお願いします。

★190人全員出してあげたいという「理想」とそれを実行する「現実」の作業にかなり苦労しました。
この自分の想いに付き合ってくれた関係者の皆様には本当に感謝しています。
特に色彩設計の中野尚美さんはじめ色関係の方々には頭が上がりません。
アニメ業界の常識外でクレイジーな仕事をさせてしまいました。
スミマセン！＆ありがとうございました！
（例えるなら５０分ずっとアニメのＯＰが続いている仕事量イメージ）

あと苦労した点といえば【Q2】でも書いてますが、
やっぱり尺を含めてのカット数のコントロールですね。
シナリオとコンテ作業の途中で尺とカット数が当初の予定よりかなり増えてしまうのは感じていたので
映像作品でよくある余白や間のカット、綺麗な背景やキャラをゆっくり叙情的に見せる系のカットを
苦渋の決断でしたがほぼ無しにしました。
このやり方はオーソドックスなコンテの描き方と全然違っているので正直難しかったです。
ですがそのセオリーを無視してでも１９０人のアイドルを最優先に描きたかったですね。

Q4

●「ETERNITY MEMORIES」についてその他何でもお話がありましたらお願いします。

★楽曲と各編の相性とテーマのリンク感には拘りました。
当然の事ではありますが今回の１０周年曲「EVERLASTING」以外の楽曲は各パートに合わせて
専用に作られた曲では無いので曲調は合ってても歌詞が全く合わない事やその逆だったり
既存の歌唱メンバーがどうしてもそのパートとして考えた時に厳しい等の問題をクリアーしていくのが
楽しくも難しかったです。

少し特殊な例としてエピローグのUNICUSのシーンで使用した「UNIQU3 VOICES!!!」は
イントロのみではありますがこの時点では唯一の未発表曲だったので自分としては「過去」を
振り返るアニメの中にあってまだ見ぬ「未来」を感じていて自分的にとても気に入ってるポイントです。

あとボイスが実装されていないアイドル達の画面内の絵的な立ち位置が難しかったですね。
しっかり画面に映してあげたい気持ちは山々だったのですがアニメは画面にある程度のサイズ感と
尺で映っていると芝居や動きが起こる箇所で「・・・ッ！」みたいな息や小声を発しないと違和感が
出てしまいます。
その違和感が強烈にならない様に控え目でしか出演させてあげられない子達に対して
苦悩が最初から最後までずっとありました。
（事情がありボイス実装されていても収録できなかったアイドルもいます）

逆に柚編のフリスクはあえてその違和感の限界を超えた見せ方をしているのですが
今回の様にアニメ的に違和感が出たけれど現状の見せ方をする事によって
出来るだけフリスク担当Pさん達にアピールして喜んでもらえる方が良かったのか、
それとも出演をもっと控え目にしてアニメ的な違和感を消してあげた方が逆に良かったのか答えは
今でも出ていません。
他のパートも大小それぞれですがボイス未実装アイドルに関しては同様の思いが強くあります。
なので身の程知らずな夢かもですが、
いつかシンデレラガールズ全員をしっかり活躍させてあげられるアニメを作りたいです！

Q5

●「アイドルマスター シンデレラガールズ U149」につきましてアドバイザーという役職でしたが、
関わる事になった経緯と主にどのような事をされていたのでしょうか？

★関わる事になった経緯は上の【Q1】で答えた通りです。
そこからシリーズ構成の打ち合わせに出席して
話し合いの中で起こるアイマス的な疑問や問題点について自分が「アイマス好きとしてはこう思う」
を首脳陣に伝えていました。（それを実際どう判断するかは監督次第です）
それが結果として「アドバイザー」という役職名になった感じですね。
余談ですがよくある「スーパーバイザー」というのは恥ずかしかったので止めてもらいました（笑）

あとアドバイスした中から実際に反映された分かりやすい例を書くと
「各話に挿入歌を使用」と「千枝回ゲストに桐生つかさ推薦」でしょうか。
当初U149は挿入歌の予定が無かったのですが
自分が担当する５話の梨沙回でどうしても挿入歌が欲しかったので、
強く希望した所なんだかんだ色々あって全話挿入歌ありで行く事になりました。
この挿入歌の有無は作品テイストに関わる部分なので自分の案が生かされたのは
アドバイザーとして大きなポイントかなと思います。

次に桐生つかさに関しては当時 彼女にボイスが実装された直後でアニメ的な新鮮味もありながら
千枝回がファッションショーだったのでブランドの社長をやっているつかさは都合が良かった事と
常に自分に自信とプライドを持ってアイドルと社長業を兼任しているなつかさなら
８話の時点ではまだ自分に自信が無い千枝にとって成長の良いきっかけになってくれると思い
推薦しました。
結果的につかさのソロ曲「アタシガルール」も生まれてくれて個人的にはガッツポーズです。

Q6

●「U149」制作中にあった印象深かった事などありましたらお願いします。

★５話ＥＤ「GEMSTONE」の雰囲気が他回と違っていたと思うのですが、それには一応理由があって
実は自分がコンテ作業時にシナリオの展開を少し変えてしまった結果だったりします。
（もちろん監督の岡本さんとシリーズ構成の村山沖さんに相談＆監修済み）
その変更して追加した部分というのがＰ発案の梨沙のイメチェンシーンだったので、
梨沙から協力してくれたみんなへのお礼をＥＤでさせてあげたかったのが理由です。

あとオシャレな「GEMSTONE」の曲調とも合うと思ったので他回と統一感が無くなってしまう事を
監督も悩んでいましたが何とか自分の我儘にＯＫを出して頂けて実現する事が出来ました。
個人的に本編のファーストカットとＥＤラストカットとイメージを合わせる演出が好きなので
実現できて本当に嬉しかったです。
その後ＢＤソフト化の際に特典としてボイスドラマ化されたりの展開は予想外でしたが
いちアイマスＰでもある自分的には感謝感激でした。

Q7

●「U149」制作にあたって苦労した事などありましたらお願いします。

★１０話の絵コンテと１０話のLIVEパート「ドレミファクトリー」は色々と大変でした。
１０話のドラマ軸はプロデューサーなのですが第3芸能課全員＋先輩アイドル達も頑張る回なので
Ｐ＆部長たち大人サイドとアイドルサイドのバランスに苦労しました。

そしてその２つの要素が合流するのが「ドレミファクトリー」なのですがこのLIVEパートは
更に難しかったですね。
主にステージが屋上という事で通常のLIVE演出が使えなかった事と
当初、屋上ステージは３Ｄが使えない（最終的には３Ｄ使用可能になります）というのが
本当に厳しかったです。
なんだかんだ色々あって皆さんに観てもらった形に完成しましたが
個人的には反省も残るLIVEシーンです。

その後ありすがシンデレラとして階段を駆け下りるＣパートは
自分がこれまで未央、卯月と過去シンデレラの階段降り話を担当した経験値が生きた気がしていて
次の１１話ありす回に繋ぐ意味でも凄く気に入っています。

Q8

●「U149」についてその他何でもお話がありましたらお願いします。

★自分はコンテを描く際に自分を納得させて描きやすくする為だけに個人的な裏設定を作るのですが、
５話の梨沙回にではオウムアムア関連を色々と妄想してコンテを描いてます。
（コンテ打ち合わせ時にオウムアムア要素を下敷きにする事にはなっていました）

今回梨沙がオーディションに落ちるのはシナリオ構成上、コンテマンの采配では変えられない
確定事項なんですが、オファーされる別役に関しては妄想＆裏設定の余地がありました。
なので作中劇である「希望のプリズム」の主役イメージと梨沙は違っていたので合格しなかったものの
デレステに繋がって行く次作「オウムアムアに幸運を」を見越した上で
主役の友人（実は準主役で大事な役）のオファーという形ならアリだと思いました。

そこで追加で考えたのがプロデューサーが梨沙に秘密で用意した「ヒョウ柄ヘアピン」です。
梨沙がオファーされた優等生的なキャラクターにあえて少し違和感を持たせて
次のオウムアムアで覚醒する「リサ」へ繋がっていく要素にしました。

５話のストーリー上は大好きなオシャレ感を全て排除して役に挑む梨沙に対して
少しでも梨沙らしさを残してあげたいＰの心遣いの象徴としての「ヒョウ柄ヘアピン」であり、
その心遣いに梨沙が初めてPにお礼を言い２人の距離が縮まるアイテムなのですが、

「希望のプリズム」の監督的にはオーディションで見た普段の梨沙のイメージが
「オウムアムアに幸運を」のリサに合うからオファーしてる訳なのでＰの提案を受け
「希望のプリズム」でもワンポイントとしてヒョウ柄ヘアピンの許可を出した。みたいなのが
個人的なコンテを描きやすくする妄想＆裏設定だったりします。

あと最後の映画館のシーンで梨沙がヒョウ柄ヘアピンを着けていないのは
変にプロデューサーへの媚びアピールになってしまいそうで梨沙らしく無いと思いやめました。
でも実はちゃんと大事にしているのはＥＤのラストで視聴者にだけ分かるくらいが
「梨沙らしい」と自分は思っているのですが皆様いかがでしょうか？

Q9
●「ETERNITY MEMORIES」と「U149」では役職としての立ち位置が違ったと思いますが、作っていく上で違い等ありましたでしょうか？こんなところがやり易かった、やり難かった等ありましたでしょうか？

★違いはシンプルに「決断」に尽きます。
エタメモは監督だったのでCygames側の意向とプロデューサーさん達が求めている事を
サイピクの制作体制を踏まえてどうアニメに落とし込んでいくかを
様々な方法論の中から選び決断しました。

U149ではアドバイザーとしてアイデアを幾つか提案はしましたが決断はしていませんし
立場的に出来ません。
コンテ演出マンとしては担当した回をひたすら良くする事に専念する部隊長という感じです。
その部隊長として与えられた裁量の中では決断していく事はありますが
作品の根幹に関わる部分に決定権はありません。

なので大きな違いはやっぱり「決断」かなと思います。
個人的には全て違ったやり甲斐と違った大変さがありましたが、やっぱり楽しかったですね。
またいつかアイマスシリーズのアニメに関われたら嬉しいです。

●長町さんインタビューありがとうございました。
長町さんとはライブも良く一緒に行ったりもしておりますが、10thPVからU149までずっと
現場が一緒でした。
色々と大変だったり苦労している所を一緒に経験させて貰っていたので、
色々と話す事もあるだろうから文字で語ってもらった方が良いかなと思いインタビューという形を
とらせてもらいました。
時間が無かったり、予定していた事が出来なくなったりとトラブルも多々あったかと思いますが
なんとか一緒に走り抜けれてよかったです。

高橋正典

Backstage Pass
～Director's notes～

奥付

表紙・裏表紙　イラスト：山口　智
　　　　　　　原案　　：高橋正典

発行日　：2024/08/12
サークル：夏服荘（サトステにて委託）
著者　　：高橋正典
印刷　　：PICO

Mail：masa441899@yahoo.co.jp
X　：@takahashi_kunn